

日本気象学会2015年度春季大会 出展・協賛・協力企業・団体等一覧

今大会の開催に当り，以下の企業・団体からご出展・ご協賛・ご協力を頂きました（2015年3月31日現在；50音順）．厚く御礼申し上げます．（*はポスター会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です．）

< 出展・協賛 >

株式会社朝倉書店*
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構*
英弘精機株式会社*
HPCシステムズ株式会社*
荏原実業株式会社*
キーコム株式会社*
サイバネットシステム株式会社*
全日本空輸株式会社
ダイヤモンドエアサービス株式会社
日本環境計測株式会社*
日本気象株式会社*
一般財団法人日本気象協会*
株式会社ニューテック*
株式会社日立パワーソリューションズ*
三菱電機特機システム株式会社*

< 協力 >

一般社団法人つくば観光コンベンション協会
つくば市

日本気象学会 2015年度春季大会

会期：2015年5月21日（木）～24日（日）

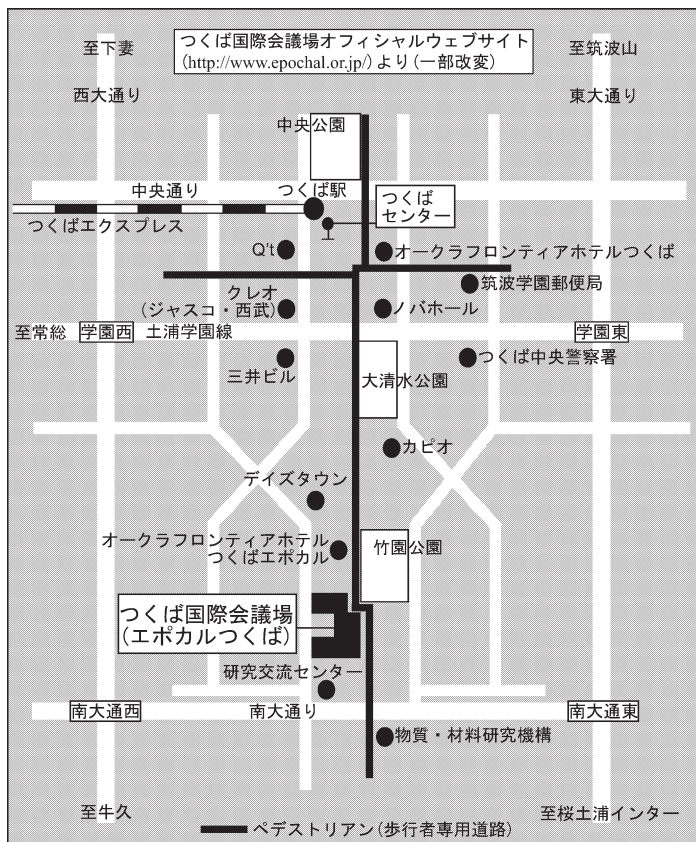
会場：つくば国際会議場（エポカルつくば）（茨城県つくば市竹園2-20-3）
 (<http://www.epochal.or.jp/>)

大会実行委員会担当機関：筑波大学，宇宙航空研究開発機構，国立環境研究所，産業技術総合研究所，
 農業環境技術研究所，防災科学技術研究所

大会委員長：田中 博（筑波大学 生命環境系）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（つくば国際会議場小会議室301）
 TEL 029-861-0613（大会期間中のみ有効）
 ※大会参加者への伝言は，受付付近の掲示板に掲示します。
 取り次ぎはいたしませんのでご承知おきます。

会場案内図



交通の案内

- つくば駅・つくばセンターまで
 - ・ つくばエクスプレス (TX)：「つくば」行きに乗車，終点「つくば駅」下車。
 - ・ JR常磐線：「土浦駅」西口2番バス乗り場，「ひたち野うしく駅」東口1番バス乗り場より，「筑波大学中央」または「つくばセンター」行きバスに乗車，「つくばセンター」下車（ともに所要時間約25分）。
 - ・ 高速バス：東京駅八重洲南口の高速バス2番のりばより（つくば号）「筑波大学」または「つくばセンター」行きに乗車，「つくばセンター」下車（所要時間約65分）。羽田空港第1，第2各ターミナル1階到着ロビー13番のりばより，「つくばセンター」行きに乗車，終点「つくばセンター」下車（所要時間約80分）。
- つくば駅・センターからつくば国際会議場まで
 ベデストリアンデッキ（歩行者専用道路）に昇り，直進（徒歩約10分）。

大会行事予定

A会場 : 大会議室101 (1F) 総会・記念講演・シンポジウム : 大ホール (1F)
 B会場 : 大会議室102 (1F) 受付 : エントランスホール (1F)
 C会場 : 中会議室201 (2F) 大会事務局 : 小会議室301 (3F)
 D会場 : 中会議室202 (2F) 懇親会 : 大会議室101・102 (1F)
 ポスター会場 : 多目的ホール (1F)
 (企業展示会場・リクルートブース併設)

	A会場	B会場	C会場	D会場	
5月 21日 (木)	09:45～ 11:45	専門分科会 (10, A101～A110) 「次期静止気象衛星 「ひまわり8号」がもたら ず未来の気象学」	専門分科会 (12, B101～B112) 「プルーワー・ドブ ソン循環研究の現状と 今後の展望」	専門分科会 (9, C101～C109) 「気象庁データを利用 した気象研究の現状と 展望」	専門分科会 (11, D101～D111) 「気象レーダー60年の 歩みと将来展望」
	11:45～ 12:45	ポスター・セッション (40, P101～P140)			
	13:45～ 17:00	専門分科会 (15, A151～A165) 「地球環境変動観測ミ ッションGCOMによる 全球規模の気象・生態 系・雪氷・水循環変動観 測計画」	専門分科会 (18, B151～B168) 「中層大気研究の最新 線」	専門分科会 (12, C151～C162) 「大気と海洋のデータ レスキューの現状とそ の利活用」	専門分科会 (8, D151～D158) 「気象レーダー60年の 歩みと将来展望」 専門分科会 (15:15～) (8, D159～D166) 「気候変動が東アジア 域気象に及ぼす影響の 理解に向けて:マルチ気 候モデルデータ解析」
5月 22日 (金)	09:30～ 11:30	降水システム I (10, A201～A210)	物質循環 I (9, B201～B209)	観測手法 I (10, C201～C210)	境界層・環境気象 (10, D201～D210)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (39, P201～P239)			
	13:30～ 15:10	総会			
	15:20～ 17:30	学会賞・藤原賞・岸保賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月 23日 (土)	09:30～ 11:30	気候システム I (10, A301～A310)	物質循環 II (12, B301～B312)	観測手法 II (7, C301～C307) 気象予報 (5, C308～C312)	大気力学 (12, D301～D312)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (39, P301～P339) ジュニアセッション (17, PJ15-01～PJ15-17, 11:30～13:30)			
	13:30～ 17:00	シンポジウム「地球温暖化の停滞と加速」			
5月 24日 (日)	09:30～ 11:30	専門分科会 (10, A401～A410) 「高解像度全球シミュ レーションが拓く新し い気候・気象研究」	専門分科会 (10, B401～B410) 「山岳域の気象・気候 および環境への影響」	データ同化 (12, C401～C412)	中高緯度大気・相互作用 (12, D401～D412)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (38, P401～P438)			
	13:30～ 17:00	公開気象講演会 「気象情報のビッグデー タ時代の幕開け」	降水システム II (21, B451～B471)	気候システム II (19, C451～C469)	台風・熱帯大気 (18, D451～D468)

発表件数 : 446件 (専門分科会123, 口頭発表167, ポスター156)

当大会予稿集に掲載された著作物については、以下の規程「日本気象学会の刊行物に掲載された著作物の利用について
http://www.metsoc.jp/teikan/MSJ_kitei_copyrightpolicy.pdf」に準じます。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会
 (E-mail: koucnkikaku2015s@mri-jma.go.jp) まで。

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は9分（講演7分・質疑2分）です。
- ・ 専門分科会の発表時間についてはコンビーナーからの指示に従ってください。
- ・ 講演にはPCプロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行

って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦210cm×横90cmとなっています。
- ・ ポスターを掲示する際には画鋲をお使い下さい。画鋲は会場に用意されています。なお、テープは使用することができません。
- ・ ポスターの掲示可能時間は、大会第1～3日目は09:00～17:30、大会第4日目は09:00～14:00です。会場の都合上、特に撤収は毎日時間厳守でお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に予め申し出ていたもの以外は原則として認められません。
- ・ ポスター会場では電源は使用できません。

シンポジウム「地球温暖化の停滞と加速」

日時：大会第3日（5月23日）13:30～17:00

会場：つくば国際会議場 大ホール

司会：田中 博（筑波大学・生命環境系）

趣旨：

過去100年程度の気候の変化には、人間活動に起因する大気中の温室効果気体の増加による温暖化の他に、十年から数十年規模の自然変動が重なっている。自然変動の要因には、太陽放射の変動や火山噴火などの外的要因の他に、気候システムの非線形的振る舞いの中で「ゆらぎ」として生じる内部変動が含まれる。気候変動に関する政府間パネル

(IPCC)の第5次評価報告書によると、近年の地球温暖化は人為的な温室効果気体の増加によるものである可能性が極めて高いと結論付けられている。1990年代の終わりまでは、全球平均気温に急激な温暖化傾向が見られた。しかし、2013年に二酸化炭素濃度が400 ppmを超えてさらに上昇する一方で、1970年代から1990年代まで続いた急激な温暖化傾向は今世紀に入ると減速し、最近の15年間では全球平均気温は横ばい状態が続いている。この現象は、地球温暖化の停滞（ハイエイタス）と呼ばれることもあり、気候科学コミュニティのみならず社会的にも大きな関心を集めてきた。観測された気温変化が、IPCC報告書にまとめられた気候モデル・アンサンブル実験の下限に位置していることから、その原因究明が急がれている。国内の最近の研究によると、過去15年間の温暖化の停滞には、エネルギー収支、海洋熱吸収、放射強制と内部変動の相対的寄与、大気海洋結合系の力学など気候のさまざまな側面が関わっていることが報告されている。温暖化停滞のメカニズム、気候モデルと観測データの不一致、将来予測に対する影響など、どれも明確な結論が得られたわけではないが、加速度的に増えつつある研究成果を現時点で総括し、この現象に対する理解を深めることには意義があると思われる。そこで、今回のシンポジウムでは、温暖化研究および気候力学研究に携わる第一線の研究者に解説をお願いすることにした。このシンポジウムを通して、参加者の皆様に温暖化研究の最前線をお伝えできれば幸いである。

プログラム：

- 1) 「地球温暖化はなぜ停滞したか」
謝 尚平（カリフォルニア大スクリッブス海洋研究所）
- 2) 「地球温暖化の「停滞」：地球温暖化研究における意味」
渡部 雅浩（東京大学大気海洋研究所）
- 3) 「太平洋・インド洋における近年の変動とモンスーン」
植田 宏昭（筑波大学・生命環境系）
- 4) 「気候変化の検出と要因分析」
塩竈 秀夫（国立環境研究所・地球環境研究センター）
- 5) 「総合討論」
司会：田中 博（筑波大学・生命環境系）

※各講演時間は質疑応答で40分です。

問い合わせ先：田中 博（筑波大学・生命環境系）

TEL:029-853-6482, E-mail: tanaka@ccs.tsukuba.ac.jp

総 会

日時：大会第2日（5月22日）13:30～15:10

会場：つくば国際会議場大ホール（つくば市竹園2-20-3）

議事次第

- | | |
|-------------------------------|------------------|
| 1. 開会 | (2) 2014年度収支決算報告 |
| 2. 議長選出 | (3) 2014年度監査報告 |
| 3. 理事長挨拶 | 9. 報告 |
| 4. 2015年度日本気象学会賞授与 | (1) 2015年度事業計画 |
| 5. 2015年度藤原賞授与 | (2) 2015年度収支予算 |
| 6. 2015年度岸保賞授与 | (3) その他 |
| 7. 2014年気象集誌論文賞及びSOLA論文賞授与と報告 | 10. 議長解任 |
| 8. 議事 | 11. 議事録署名人の指名 |
| (1) 2014年度事業報告 | 12. 閉会 |

専門分科会の概要紹介

2015年度春季大会では下記の通り、10件の専門分科会が開かれます。

次期静止気象衛星「ひまわり8号」がもたらす未来の気象学

日時：大会第1日（5月21日）09:45～11:45

場所：A会場

趣旨：2014年10月7日に種子島より打ち上げられた「ひまわり8号」は、2015年中に運用を開始するべく、現在準備中である。同衛星は、可視・赤外放射計のチャンネル数は現行の5から16へと飛躍的に増え、水平解像度も現行の倍、観測頻度は全球で10分毎、特に日本付近では2.5分毎（ラピッド・スキャン観測）へと強化される。これらの機能強化により、気象業務の実利用として、台風や局地的大雨などの顕著現象の実況監視能力の向上や、データ同化を通じた数値予報モデルの予測精度の向上などが期待される。また、気象学の発展の観点からも、地球観測衛星や極軌道気象衛星等との複合観測による大気現象のメカニズム解明や、気候変動の監視・解析などへの活用の期待が高まっている。同衛星については、2011年の春季大会でも専門分科会を実施し、活発な議論が交わされた。その後も、同衛星データの利用を想定した研究や技術開発が着実に進展している。衛星の実利用が目前に迫った本大会でも、同衛星についての最新の情報を提供するとともに、これまでの研究成果や今後の利用計画を俯瞰し、同衛星が果たすべき役割について幅広く議論したい。

コンピーナー：別所康太郎（気象庁気象衛星センター）、石元裕史（気象研究所）、岡本幸三（気象研究所）、瀬古弘（気象研究所）、中島孝（東海大学）、本多嘉明（千葉大学環境リモートセンシング研究センター）、真木貴史（気

象研究所）、三好建正（理化学研究所計算科学研究機構）

ブリューワー・ドブソン循環研究の現状と今後の展望

日時：大会第1日（5月21日）09:45～11:45

場所：B会場

趣旨：成層圏ブリューワー・ドブソン循環（BDC）の発見は1950年代に遡るが、近年の気候研究においてその重要性が再認識されている。非常にゆっくりとしたBDCを直接観測することは困難であるため、その詳細な構造については不明な部分が多い。BDCは、自然変動だけでなく、温室効果気体の増加に伴い長期的に変動している可能性も指摘されている。BDCの形成・変動要因を説明するために、理論的・数値モデル研究も進められているが、各種大気波動の役割や、対流圏循環との相互作用過程など、様々な要素を考慮し包括的な理解を得ることが望まれている。本分科会では、BDCの形成・変動に関するこれまでの知見を集約し、今後の展望を議論することを目的とする。Age-of-air変動、数値モデル・客観解析における表現、3次元構造など、多角的な議論を期待する。中層大気の多様な現象を対象とする専門分科会「中層大気研究の最前線」と同時開催することで、中層大気研究に関する議論を深める。

コンピーナー：宮崎和幸（海洋研究開発機構）、木下武也（情報通信研究機構）、江口菜穂（九州大学）、小寺邦彦（名古屋大学）、岩崎俊樹（東北大学）

気象庁データを利用した気象研究の現状と展望

日時：大会第1日（5月21日）09:45～11:45

場所：C会場

趣旨：気象庁と気象学会との包括的共同研究契約である「気象研究コンソーシアム」が締結されて7年が経過しました。コンソーシアムでは、数値予報用実況解析、各種数値予報データなどの気象庁モデルの出力データのみならず、海面水温解析値や気象衛星ラピッドスキャンデータなどの最先端の解析・観測データの提供などを通じ、気象研究とその研究成果の社会還元への促進に努めています。また、今後運用予定の高機能静止衛星「ひまわり8号・9号」データなどのビッグデータの研究利用も期待されています。

本分科会では、

- (1) 数値予報の出力データを利用した研究
- (2) 気象衛星ラピッドスキャンデータなど新しい観測データを用いた研究
- (3) 数値予報モデル・データ同化手法の開発と精度向上の研究

などに関する講演を募集し、気象庁データが拓く新しい気象研究について展望します。なお、本分科会への講演申込には、コンソーシアムへの参加の如何は問いません。
コンピーナー：向川均（京都大学防災研究所）、高藪縁（東京大学大気海洋研究所）、佐藤芳昭（気象庁予報部数値予報課）

気象レーダー60年の歩みと将来展望

日時：大会第1日（5月21日） 09:45～11:45, 13:45～15:15

場所：D会場

趣旨：1954年に大阪管区気象台と気象研究所において気象レーダーの運用が開始されてから60年余が経過した。わが国の気象レーダーは人間でいえばいわゆる「還暦」を迎えたことになる。本分科会ではこの60年間のわが国におけるレーダーに関する気象学と技術の歩みを振り返るとともに、将来の展望と課題について議論する。

わが国の現業気象レーダーはアナログ方式による台風の監視に始まり、デジタル方式への進化、地形除去機能の付加、データの全国合成などを経て、その成果は精度と革新性において世界に誇るべき「解析雨量」に集約されている。近年ではこれを応用した「土壌雨量指数」などが防災分野で重要視されている。またドブラー機能による空港周辺の低層ウィンドシアア監視や各地の竜巻監視が業務化されている。並行して河川管理業務においても気象レーダーが広く利用されるとともに、近年の都市水害の監視を主目的としたXバンド二重偏波レーダーの展開は、わが国における気象レーダーの歴史に大きな節目を与えた。

一方、わが国の気象学研究的発展においても気象レーダーの果たしてきた役割は大きい。特に梅雨期豪雨、北陸豪雪を始めとする各地に大雨・大雪・強風をもたらす対流システム、さらにはアジア・オセアニア各地における対流システムのメカニズム解明において、わが国の大学・研究機関が運用する気象レーダーが大きく貢献してきた。近年では世界をリードする超高速・超高解像度気象レーダーの開発がめざましい。

本専門分科会では、わが国における1)気象レーダーの歴史、2)気象レーダーの業務利用、3)気象レーダーの研究利用、4)最新の気象レーダー技術の将来展望、の4のセクションにおいて招待公演及び一般講演を行う。

コンピーナー：石原正仁（京都大学学際融合教育研究推進

センター）、藤吉康志（北海道大学低温科学研究所）、立平良三（元気象庁長官）

地球環境変動観測ミッション GCOM による全球規模の大気・生態系・雪氷・水循環変動観測計画

日時：大会第1日（5月21日） 13:45～17:00

場所：A会場

趣旨：宇宙航空研究開発機構は2012年5月に水循環変動観測衛星 GCOM-W を打上げ、2012年7月より高性能マイクロ波放射計 AMSR2 による全球の水循環変動の観測を開始した。また、2016年度には多波長光学放射計 SGLI を搭載した気候変動観測衛星 GCOM-C の打上げを計画している。SGLI は、放射収支や炭素循環等のメカニズム解明を目的として、可視から熱赤外までの放射輝度を全球・高頻度に観測し、植生、大気、海面、雪氷に関する各種物理量を抽出する予定であり、現在、物理量解析のためのアルゴリズム開発や精度検証のための地上観測計画の準備が進められている。本分科会では、GCOM-W のこれまでの観測成果および GCOM-C のアルゴリズム開発状況や打上げ後の検証計画について報告するとともに、気象・気候変動分野における GCOM データの利用可能性について議論する。

コンピーナー：中島孝（東海大学）、本多嘉明（千葉大学）、沖大幹（東京大学）、奈佐原頭郎（筑波大学）、虎谷充浩（東海大学）、青木輝夫（気象研究所）、村上浩、可知美佐子、堀雅裕（JAXA）

中層大気研究の最前線

日時：大会第1日（5月21日） 13:45～17:00

場所：B会場

趣旨：新たな測器による観測、高解像度モデルや CCM-Val・CMIP5 モデル実験、新理論の構築、等により、この数年間で中層大気に関する新たな知見が数多く得られている。CMIP5 で成層圏まで含むモデルの割合が格段に増した事や、気象庁全球数値予報モデルが中間圏界面まで含むようになった事にも象徴されるように、中層大気は対流圏と結合し、数日～100年規模スケールの気候変動にとって必要不可欠である。また海洋や熱圏との相互作用の実態も明らかになりつつあり、分野横断的な研究が求められている。今回はこれまで JpGU で開催してきた中層大気全般を扱うセッションを、気象学会に移して開催する。中層大気研究の最新成果を集約するとともに今後の展望について、気象学に関わる広範な分野の研究者と議論したい。なお「ビューワー・ドブソン循環研究の現状と今後の展望」の内容に焦点を当てた専門分科会は別途開催する。

コンピーナー：河谷芳雄（独立行政法人海洋研究開発機構）、西井和晃（東京大学先端科学技術研究センター）、坂崎貴俊（京都大学生存圏研究所）、佐藤薫（東京大学大学院理学系研究科）

大気と海洋のデータレスキューの現状とその活用

日時：大会第1日（5月21日） 13:45～17:00

場所：C会場

趣旨：近年の気候の大きな変化を科学的により正確に理解し、大きな変化が危惧される将来気候の予測の精度を高めるために、大気や海洋の長期変化を捉えることのでき

る観測データや再解析データが望まれる。過去数百年間に渡って膨大な紙資料の観測データが利用されずに図書館などに眠っている。このような資料を発掘し収集するデータレスキューが国際的に現在精力的に進められている。さらに、観測データが長期に亘って充実している地上の気圧や温度観測を用いて 20 世紀を対象とした大気再解析も行われてきている。これらのテーマについて国内外の研究を紹介・レビューするとともに、歴史的データを活用する今後の気候研究についてのアイデアを見いだすことを本分科会の目的とする。

コンピーナー：財城真寿美（成蹊大）、久保田尚之（海洋研究開発機構）、石井正好（気象研究所）

気候変動が東アジア域気象に及ぼす影響の理解に向けて：マルチ気候モデルデータ解析

日時：大会第1日（5月21日） 15:15～17:00

場所：D会場

趣旨：地球温暖化は地表平均気温を上昇させるだけでなく、大気や海洋の大循環の変化などを通じて、温帯低気圧の経路、台風、豪雨や干ばつの頻度や強度など、様々な大気現象の様相を変化させる可能性があります。特に、アジアに住む私たちにとっては、雨の降り方の変化は、生活の安全や食料生産に直接影響する重要な問題です。

2013年発表された IPCC 第5次評価報告書のために、第5次結合モデル相互比較計画（CMIP5）という国際的な研究計画のもと、世界から 50 以上の気候モデルによる実験結果が集められました。本専門分科会では、CMIP5 データ他マルチ気候モデルデータと最新の観測データを利用した、東アジア域の気候や身近な気象についてモデル再現性と将来変化予測に関する講演を募集します。特に、全球規模の気候変動に伴い東アジア域の四季における様々な現象がどのような仕組みで変化するかについて議論の基礎となる研究発表を歓迎します。

コンピーナー：高森縁（東京大学大気海洋研究所）、尾瀬智昭（気象庁気象研究所）、中村尚（東京大学先端科学技術研究センター）

高解像度全球シミュレーションが拓く新しい気候・気象研究

日時：大会第4日（5月24日） 09:30～11:30

場所：A会場

趣旨：全球モデルの高解像度化は、この 10 年間の計算技術の進歩（地球シミュレータ、京コンピュータ等）により飛躍的に進みました。現在では、全球非静力学モデル NICAM を用いた水平解像度 14 km の気候シミュレーションが実現し、その解析結果が出始めています。ポスト「京」時代が間近となり各方面の議論が進められていく中で、今一度サイエンスとしての新しい課題を具体的に議論し、その先の展開を眺望する場を設けたいと思います。募集講演では、現在までの高解像度全球シミュレーションから「何が得られ、今後の高解像度全球シミュレーションによって「更に何を追究したいか」、そのために全球モデルをどう発展させるべきか、等をご発表頂きます。大気・海洋・陸面・化学など多様な分野から、若手を含む多くの皆様の自由闊達なご議論を期待します。

コンピーナー：那須野智江（海洋研究開発機構）、梶川義幸（理化学研究所）、釜江陽一（国立環境研究所）、小玉知央（海洋研究開発機構）、佐藤友徳（北海道大学）、佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所）、富田智彦（熊本大学）、水田亮（気象研究所）

山岳域の気象・気候および環境への影響

日時：大会第4日（5月24日） 09:30～11:30

場所：B会場

趣旨：山岳域は、空間スケールや広域循環場などに応じ、気象に対して様々な影響を及ぼす。近年は、地形に依存した気象災害もしばしば指摘されている。本セッションは、2010年春の大会で企画した同名のセッションを継承し、山岳域に関わる大気陸面相互作用から防災対策まで幅広い分野の研究展望を横断的に議論する事を目的とする。山岳域を中心とした近年の気象観測・解析・シミュレーション研究のほか、生態系や雪氷現象に関連する内容も含む。

コンピーナー：上野健一（筑波大学生命環境系）、玉川一郎（岐阜大学流域圏科学研究センター）、筆保弘徳（横浜国立大学教育人間科学部）、川瀬宏明（気象研究所環境・応用気象研究部）

公開気象講演会のお知らせ

参加は無料です。

日時：2015年5月24日（日）（大会第4日）13:30～17:00

場所：つくば国際会議場 大会議室 101（大会 A 会場）

テーマ：「気象情報のビッグデータ時代の幕開け」

主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会

後援：気象庁・公益社団法人日本気象学会 気象研究コンソーシアム、一般社団法人日本気象予報士会

趣旨：日本気象学会 2015 年度春季大会の開催に併せて、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果や関心の深い事柄について解説することを目的として公開気象講演会を開催します。今回は、「気象情報のビッグデータ時代の幕開け」を取り上げます。気象学の発展には、

気象観測データや衛星データ、数値モデルのアンサンブル予報データなどの大規模気象データをリアルタイムで扱う IT 技術のインフラ整備が欠かせません。これまで、リアルタイムの気象データは、気象業務支援センターや気象研究コンソーシアムによるサーバーを介して研究者や事業者へ配信されてきましたが、2014 年秋に打ち上げられた「ひまわり 8 号」による超高解像度・高頻度の衛星画像の登場により、データ量が桁違いに増大し、気象業界にもビッグデータの時代が目の前に迫りつつあります。そこで、今回の講演会では、先端気象情報として、次世代のひまわり画像、瞬時に大気状態を把握

可能なフェイズドアレイレーダー、今後の発展が期待されるドップラーライダー観測網、巨大化する数値予報アンサンブルデータ同化などを題材にして、気象情報のビッグデータ時代の幕開けとそのビッグデータを濃縮して社会に伝える気象キャスターの対応策などについて、分かりやすくご紹介いたします。ふるってご参加下さるようお願いいたします。

テーマおよび講演者：

1. 「ビッグデータ時代の将来展望」
林 祥介 (神戸大学)
2. 「新しい気象衛星ひまわり 8 号の概要」
別所康太郎 (気象庁気象衛星センター)
3. 「豪雨の 3 次元構造を高速に捉えるフェイズドアレイ気象レーダー」
佐藤晋介 (情報通信研究機構)

4. 「ビッグデータ同化による天気予報革命」
三好建正 (理化学研究所計算科学研究機構)
5. 「局地的豪雨の早期予測技術開発－積乱雲の一生の観測にむけた観測ネットワーク」
清水慎吾 (防災科学技術研究所)
6. 「ビッグデータ時代の天気予報」
井田寛子 (NHKニュースウオッチ9 気象キャスター)
7. 「パネルディスカッション」
司会 余田成男 (京都大学)
総司会 小寺裕之 (気象庁)

問い合わせ先：小木昭典 (教育と普及委員会)
TEL: 03-3212-8341 (内線 4148, 気象庁環境気象管理官室内)
E-mail: a-ogi@met.kishou.go.jp

研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込も不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

第43回メソ気象研究会

日時：2015年5月20日(水) (大会前日) 13:30～17:00

場所：気象庁講堂 (東京都千代田区大手町1-3-4)

テーマ：「短時間強雨予測への挑戦」

コンピーナー：加藤輝之 (気象研究所)

内容：昨年8月20日未明に広島で発生した大雨事例に代表されるように、大雨が引き起こす土砂災害等により多数の人命が失われてきています。このような大雨を事前に予測することは防災対策として必須で、そのためには数値予報モデルの予報精度向上に加えて、実況の観測データを主体とした運動学的予測(ナウキャスト)の改善を行っていく必要があります。特に都市域では局地的に短時間に降る強雨により、中・小河川の越水や鉄砲水、低平地での内水氾濫が複数発生しています。そのような短時間強雨も視野に入れ、気象庁では昨年8月から国土交通省XRAINのデータも活用した水平分解能250mの高解像度降水ナウキャスト(30分の予測まで。その後1時間までは水平分解能1km)を開始しました。このプロダクトの説明に加えて、今回のメソ気象研究会では、短時間強雨予測に対する取り組みを行っている方に講演を依頼し、話題提供をしていただくことにしました。多くの方々のご参加と活発な議論をお願いいたします。

プログラム：

- 13:30-13:40 趣旨説明
- 13:40-14:10 「気象庁の高解像度降水ナウキャストについて」
未定 (気象庁関係者)
- 14:10-14:40 「局地的大雨の観測から予測へー積乱雲の一生の観測と発達予測ー」
岩波 越 (防災科学技術研究所)
- 14:40-15:10 「ゲリラ豪雨の早期探知と危険性予測」
中北英一 (京都大学防災研究所)
- 休憩
- 15:30-16:00 「「ビッグデータ同化」でゲリラ豪雨に挑む」
三好建正 (理化学研究所)

16:00-16:20 「上流下層加湿による短時間降水予測と対流初期構造の定式化」
若月泰孝 (筑波大学)

16:20-17:00 総合討論

世話人：坪木和久 (名大地球水循環)、加藤輝之 (気象研究所)、小倉義光 (東大気海洋研)

連絡先：加藤輝之 (気象研究所)

E-mail: tkato@mri-jma.go.jp

注意事項：講堂でのご飲食はご遠慮ください。トイレはIFをご利用ください(名札を提示されるとゲートを通してもらえます)。

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2015年5月21日(木) (大会第1日) 17:15～2時間程度
場所：中会議室202 (2F) (大会D会場)

テーマ：極域気象研究を考える

趣旨：今回は、日本の極域研究に長年ご尽力いただいた国立極地研究所の山内恭氏による特別講演会を行います。南極地域観測事業やGRENE北極気候変動研究事業など、大型極域観測研究の立案に幾度も貢献されてきた山内氏は、両極から極域研究を時間を追って俯瞰できる数少ない研究者です。折しも2015年度は、両極における大型研究プロジェクトの節目の年。日本気象学会のオゾンホール問題や日本の北極研究における省庁間の確執に触れながら、これまでの日本の極域研究プロジェクトの歴史を振り返るとともに、今後の極域研究の在り方を考える機会としたいと思います。飛び入りの話題提供・問題提起等も歓迎致します。「極寒連の系譜と極域気象研究」
山内 恭 (国立極地研究所)

問い合わせ先：猪上 淳 (国立極地研究所)

TEL: 042-512-0681, E-mail: inoue.jun@nipr.ac.jp

オゾン研究連絡会

日時：2015年5月21日（木）（大会第1日）18:00～2時間程度

場所：つくば国際会議場 404会議室

テーマ：「大気オゾンをめぐる研究の諸課題－私達が解決したいこと－」

内容：このたび世話人が交代し、期を新たに「オゾン研究連絡会」を開催してゆくこととなった。その初回として今回は、対流圏・中層大気オゾンとそれらが関連する物質の化学・輸送・循環に関する研究で、現在重要となっている課題を改めて俯瞰的に整理し、我々が取り組むべき研究について議論する場としたい。その際、オゾンが持つ化学気候相互作用のために、短寿命気候汚染物質(SLCP)の一種として近年注目されている点や、衛星観測が飛躍的に向上し、中層大気だけでなく対流圏オゾンについても分離導出可能となってきた点についても焦点を当てたい。さらに、物理化学的過程に加えて、陸域生態系や海洋などを含む地球システムのなかでのオゾンの役割についても議論を深めたい。その中で、次回以降の連絡会でのトピックスの選定などに関する本連絡会の方向性を見出していくこととしたい。

プログラム：

1. 「対流圏化学と衛星観測」 40分
金谷有剛（海洋研究開発機構）
2. 「大気化学・気候モデリングと短寿命気候汚染物質(SLCPs) 予測における課題」 40分
須藤健悟（名古屋大学）
3. 「中間圏・下部熱圏領域における大気微量成分の化学－成層圏化学との違い－」 10分
笠井康子（情報通信研究機構）
4. 「大気組成変動研究における衛星観測と数値モデルの統合利用」 10分
宮崎和幸（海洋研究開発機構）
5. 「全体討論」 20分

世話人：林田佐智子（奈良女子大学）、笠井康子（情報通信研究機構）、金谷有剛（海洋研究開発機構）、高島久洋（福岡大学）、宮崎和幸（海洋研究開発機構）

連絡先：宮崎和幸（海洋研究開発機構）

E-mail: kmiyazaki@jamstec.go.jp

ジュニアセッションのお知らせ

関係者の大会参加は無料です。

日時：2015年5月23日（土）（大会第3日）11:30～13:30

場所：つくば国際会議場（ポスター会場）

主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会・講演企画委員会

趣旨：天気予報は、私たちの日常生活に、もはや欠かせないものとなっています。この天気予報技術を支えているのが気象学です。日本気象学会は、気象学に興味を持つ主に高校生・高専生（中学生も可）を対象に、春季大会においてジュニアセッションを開催します。本企画は、生徒たちが気象学会の大会会場において、専門家の前で発表体験をする機会を設けることを主な目的とします。したがって、研究内容の優劣を競うことを主目的とはしておりません。この企画により、生徒たちの気象学に対する興味や探究心が高まれば、学会としての社会貢献にとどまらず、将来の気象学の発展と、より豊かな社会の招来に繋がるものと期待しています。

発表資格：高等学校、高等専門学校（1～3学年）に在籍の生徒、または、高校卒業後1年以内の個人または団体（グループ）とします。また、中学生も可とします。

発表内容・形態：発表は全てポスターとします。気象・気候

や大気科学の観測・研究に関するものであれば、広く発表を認めます。

申し込み方法：申し込みは日本気象学会ホームページから2015年1月5日から同年4月3日に行われました。申し込み用紙の他、発表内容を要約した予稿（A-4判1枚）の添付が必要です。受理通知は同年4月中にメールでお知らせしました。

参加特典：

1. 発表者の全員に対し、学会発表認定証を発行します。
2. 日本気象学会ホームページに発表要旨などが掲載されます。
3. 春季大会における各種セッション、シンポジウム、講演等を、無料聴講できます。
4. 発表者は、専門家による質疑やコメントを通じて、研究の要領やヒントを得、また参加者同士の交流を深めることができます。

問い合わせ先：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会
東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL: 03-3216-4403, Fax: 03-3216-4401

E-mail: msj-ed_2015@metso.jp

大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会中の保育施設利用料の一部補助を行います。保育施設として、下記2件を紹介いたします。

1. チャイルド・クラブ・パンセ

〒305-0051 茨城県つくば市二の宮 1-21-3

グランドパレス NS-1 102号・106号

TEL: 029-861-1500, FAX: 029-861-1700

<http://www.childclub.e-tsukuba.jp/index.htm>

2. キッズハウスつくば

〒305-0051 茨城県つくば市二の宮 1 丁目 24-8
 パルシヤスつくば 1F 101 号
 TEL: 0120-38-8373
<http://www.kids-house.jp/>

利用料金等は、各ホームページを確認下さい。
 両施設は大会会場近傍にあり、関東鉄道バス「学園南循

環」路線の「二の宮一丁目」バス停が利用可能ですが、便は余り良くありません。

上記の施設、及びそれ以外の保育施設の利用等も含め、保育支援を希望される方は、2015年4月16日（木）までに下記担当者までご連絡下さい。それ以降の問い合わせにも極力対応させていただきます。

連絡先：菅田誠治（国立環境研究所）
 TEL: 029-850-2457, E-mail: sugatas@nies.go.jp

リクルートブースの設置について

ポスター発表が行われる場所に隣接して、会場内にリクルートブースを設ける予定です。これは、民間企業から適職に出会うための機会を提供して頂き、気象学会に所属する大学院生や有期雇用研究者との間での情報交換を通じて、彼らのキャリア形成をサポートすることが目的です。参加予約手続きは不要です。ブースでは、ポスター発表時間および昼休みにのみ、企業担当者が対応します。

リクルートブースに出展予定の企業は以下の通りです（2015年4月1日現在）。*の企業は5月23日（土）と

24日（日）、それ以外の企業は21日（木）と22日（金）の開設を予定しています。

いであ株式会社
 国際気象海洋株式会社*
 日本気象株式会社
 一般財団法人日本気象協会（展示ブースに併設）
 ペンギンシステム株式会社
 （五十音順）

秋季大会の予告

2015年度秋季大会は、2015年10月28日（水）～30日（金）に京都テルサで開催される予定です。

大会第1日〔5月21日(木)〕 9:45~11:45 専門分科会

A 会場

「次期静止気象衛星「ひまわり8号」がもたらす未来の気象学」

趣旨説明

座長：三好 建正（理研）

- A101 別所 康太郎（衛星センター） 次期静止気象衛星ひまわり8号の概要
- A102 樋口 篤志（千葉大 CEReS） 「ひまわり8号」データの有効活用、静止衛星群を用いた全球展開に向けた研究開発環境構築
- A103 関口 美保（海洋大） ひまわり8号の観測バンドに特化した気体吸収テーブルの開発

座長：別所 康太郎（衛星センター）

- A104 岩渕 弘信（東北大院理） ひまわり8号のデータを用いた氷晶雲の解析
- A105 広瀬 民志（千葉大 CEReS） MSG静止気象衛星マルチチャンネルを用いた降雨確率推定
- A106 弓本 桂也（気象研） ひまわり8号データを用いたエアロゾル統合プロダクトの作製にむけて
- A107 竹中 栄晶（東大大気海洋研） 「ひまわり8号」観測データに基づく日射量の準リアルタイム解析と太陽熱利用への応用及び太陽光発電出力のモニタリング

座長：瀬古 弘（気象研）

- A108 小山 亮（気象研） ラピッドスキャン上層AMVの台風構造・強度解析での利用可能性
- A109 大塚 道子（気象研） 気象衛星ひまわり高頻度観測データのメソスケールデータ同化
- A110 中野 満寿男（JAMSTEC） 夏季の北西太平洋域における台風発生予測可能性

総合討論

大会第1日〔5月21日(木)〕 9:45~11:45 専門分科会

B 会場

「ブリューワー・ドブソン循環研究の現状と今後の展望」

座長：宮崎 和幸（海洋研究開発機構）

- B101 菅原 敏（宮教大） クロック・トレーサーを用いた AOA 推定の課題
- B102 村田 功（東北大院環境） 微量成分の経年変化に見られる成層圏循環の変動
- B103 石戸谷 重之（産総研） 大気重力分離の観測に基づく成層圏大気循環の研究とその今後の展望
- B104 直江 寛明（気象研） CCM1 シナリオによる残差循環変動とオゾン QBO
- B105 出牛 真（気象研） 気候モデルで表現される成層圏大気平均年代(MeanAge)の空間解像度および輸送計算スキーム依存性について
- B106 佐々木 拓也（京大生存研） 化学気候モデルより得られたフリーラン実験のバイアスについて

座長：木下 武也（NICT）

- B107 山下 陽介（環境研） QBO と太陽 11 年周期が極渦の季節変化に及ぼす影響に関する成層圏 BDC と成層圏-対流圏結合の役割
- B108 小林 ちあき（気象研） 平均子午面循環の JRA-55 ファミリー間比較
- B109 野田 彰（気候研究部） 一般化された変換 Euler 平均(GTEM)から見た平均子午面循環
- B110 林 佑樹（東大院理） 非定常な波強制に対する子午面循環形成過程
- B111 平野 創一朗（東大院理） 南半球成層圏最終昇温の年々変動における大気波動の役割に関する 3 次元解析
- B112 木下 武也（NICT） 南半球中高緯度域の停滞性擾乱及び非定常擾乱に伴う物質輸送について

大会第1日〔5月21日(木)〕 9:45~11:45 専門分科会

C 会場

「気象庁データを利用した気象研究の現状と展望」

趣旨説明(2分)

向川 均(京大防災研)

座長：向川 均(京大防災研)

- C101 *永戸 久喜(気象庁数値予報) 気象庁現業数値予報システムの現状と開発計画
 C102 *新保 明彦(気象庁気候情報) 気象庁現業1か月アンサンブル予報システム
 C103 *稲津 将(北大院理) 確率微分方程式を用いた成層圏・対流圏の予測可能性の解析
 C104 野口 峻佑(京大院理) 極夜ジェット振動の予測可能性
 C105 田口 正和(愛知教育大) 成層圏大規模突然昇温の予測可能性：2001/02~2012/13年の気象庁現業1ヶ月アンサンブル予報データの解析結果

座長：高藪 縁(東大AORI)

- C106 *濱田 篤(東大AORI) ラピッドスキャンデータを用いた雲降水システムの発生・発達過程の研究
 C107 榎本 剛(京大防災研) 現業数値予報モデルを用いた予測可能性研究
 C108 大竹 秀明(産総研) 気象庁データの電力システムにおける利用可能性
 C109 村山 泰啓(NICT) オープンサイエンスと科学研究データ共有に関する国内外動向について

総合討論(13分)

余田 成男(京大院理)

*は招待講演(各15分)、それ以外は一般講演(各9分)

大会第1日〔5月21日(木)〕 9:45～11:45 専門分科会

D 会場

「気象レーダー60年の歩みと将来展望」

趣旨説明

座長：藤吉 康志（北大・低温研）

- D101 立平 良三（元気象庁） 気象庁レーダー60年の歩み
- D102 深見 和彦（国総研） 旧建設省～国土交通省におけるレーダ雨量計開発の歴史
- D103 長屋 勝博（日本無線） 気象レーダー開発・製作の変遷－60年の取り組みをたどって－
- D104 浜津 享助（元三菱電機） レーダー製作の歴史
- D105 和田 将一（東芝） レーダー製作の歴史
- D106 塚本 尚樹（気象庁観測） 気象庁現業用レーダーの機器仕様とデータ利用の変遷
- D107 大森 志郎（気象庁予報） 気象庁の予報業務におけるレーダーデータの利用について
- D108 中北 英一（京大防災研） 気象レーダーによる3次元観測情報のオペレーショナルな利用手法の開発
- D109 井口 俊夫（NICT） NICTにおける降雨レーダ開発－TRMM衛星およびGPM衛星搭載降水レーダの開発－
- D110 上田 博（名大地球水循環） 大学における気象レーダーの研究利用：1980年代から2010年代へ
- D111 藤吉 康志（北大・低温研） 名大・水圏研と北大・低温研の気象レーダを用いた研究

大会第1日〔5月21日(木)〕 13:45~17:00 専門分科会

A 会場

「地球環境変動観測ミッションGCOMによる全球規模の大気・生態系・雪氷・水循環変動観測計画」

座長：沖 大幹（東大生産研），可知 美佐子（JAXA/EORC）

- A151 沖 大幹（東大生産研） GCOM-W/AMSR2 の最新状況と水循環関連プロダクト
- A152 澤田 洋平（東大院工） AMSR2 観測輝度温度データを用いた陸域水文-生態系結合同化システム
- A153 青梨 和正（気象研） 次世代のマイクロ波イメージャ降水リトリーバルアルゴリズム開発（その3）

座長：村上 浩（JAXA/EORC）

- A154 村上 浩（JAXA/EORC） JAXA 気候変動観測衛星 GCOM-C ミッションとプロダクト開発の計画
- A155 堀 雅裕（JAXA/EORC） GCOM-C/SGLI プロダクトの打上げ後検証計画の概要
- A156 橋本 真喜子（大海研） 衛星リモートセンシングにおけるエアロゾル特性推定アルゴリズム「多波長マルチピクセル法」の開発と解析例
- A157 向井 苑生（京都情報大学院大学） ヘイズ（霧）と雲の識別と同定
- A158 永尾 隆（JAXA/EORC） GCOM-C 雲プロダクトの概要および雲特性推定における雲不均質性の影響について
- A159 栗原 幸雄（JAXA/EORC） ヘイズ推定による GCOM-C 海面温度用の夜間雲検出

座長：堀 雅裕（JAXA/EORC）

- A160 久慈 誠（奈良女子大） 船舶搭載型雲底高度計観測データ解析による雲の特徴
- A161 片桐 秀一郎（東北大院理） MODIS データによる放射フラックスと地上観測サイトおよび他の放射フラックスプロダクトの比較について
- A162 小野 祐作（JAXA/EORC） 衛星多波長・多方向観測データと三次元放射伝達モデルによる上層植生と下層植生を区別した LAI の推定
- A163 宮崎 理紗（JAXA/EORC） GCOM-C/SGLI プロダクト地表面温度(LST)検証に向けたフラックスタワーサイトの地上データ解析
- A164 青木 輝夫（気象研） グリーンランド氷床における積雪物理量の衛星リモートセンシング
- A165 馬淵 和雄（国環研） 地球観測衛星プロダクトと気候モデルプロダクトの相互利用検証

総合討論

大会第1日〔5月21日(木)〕 13:45~17:00 専門分科会

B 会場

「中層大気研究の最前線」

趣旨説明

座長：西井 和晃（東大先端研）

- B151 塩谷 雅人（京大生存研）衛星からの新しい中層大気統合観測 - SMILES-2 に向けて -
- B152 佐藤 薫（東大院理）南極大気精密観測に基づく地球気候変動機構に関する研究—第 IX 期南極地域観測事業重点研究観測計画—
- B153 高麗 正史（東大院理）PANSY レーダーを用いた極域中間圏夏季エコー (PMSE) と中間圏界面付近の風速の統計解析
- B154 三村 慧（北大院環境）熱帯対流圏界層における氷晶生成過程
- B155 稲飯 洋一（京大生存研）RS80 ラジオゾンデ気圧バイアスに起因する高度誤差とその気象観測プロファイルへの影響
- B156 伊藤 久徳（九大）7Be 濃度を用いた成層圏大気の地表への最速降下経路の解明
- B157 廣岡 俊彦（九大院理）赤道域半年周期振動と成層圏突然昇温の関連について
- B158 雨宮 新（東大院理）3次元伝播を考慮した重力波パラメタリゼーションに関する研究
- B159 西本 絵梨子（京大院理）二次元湿潤対流モデルで得られた QBO 的振動における鉛直運動量輸送の評価について

休憩

座長：坂崎 貴俊（京大生存圏）

- B160 水田 亮（気象研）アンサンブル予報モデル相互比較における成層圏突然昇温
- B161 野口 峻佑（京大院理）成層圏における惑星規模波反射現象の予測可能性: 2014 年 2 月の事例に関するアンサンブル再予報実験
- B162 上田 学（京大院理）成層圏突然昇温を引き起こした惑星規模波束の射出源に関する解析
- B163 柴田 清孝（高知工科大）成層圏突然昇温期間中の極渦のディスプレースメント、スプリットと波数 1, 2 の性質について
- B164 門脇 正尚（環境研）リオ・ガジェゴス（アルゼンチン）上空の 2009 年 11 月のオゾン全量低下に関連した南半球高緯度の力学場の解析と 1979~2011 年の力学場・化学場の解析
- B165 小玉 知央（JAMSTEC）中層大気版 NICAM における基本場・大気重力波の解像度依存性
- B166 吉田 康平（気象研）熱帯対流圏界層における鉛直流の CMIP5 モデル比較
- B167 三好 勉信（九大院理）北極域の海氷減少が冬季成層圏循環に及ぼす影響
- B168 谷田貝 亜紀代（名大太陽研）超高層大気循環場への太陽フレア活動応答：ファブリ・ペロー干渉計から見た熱圏風への影響

大会第1日〔5月21日(木)〕 13:45～17:00 専門分科会

C 会場

「大気と海洋のデータレスキューの現状とその利活用」

趣旨説明

座長：財城 真寿美（成蹊大）

- C151 三上 岳彦（帝京大） 19世紀における全国灯台気象観測記録のデジタル化に向けた試み
- C152 財城 真寿美（成蹊大） 19世紀の日本における気象観測記録のデータレスキュー
- C153 山本 哲（気象研） 東京気象台1875（明治8）年観測開始期のメタ情報(2)
- C154 釜堀 弘隆（気象研） 高層観測データレスキュー

座長：石井 正好（気象研）

- C155 遠藤 伸彦（JAMSTEC/RCGC） 20世紀におけるメコン河流域の降水特性データの復元
- C156 久保田 尚之（JAMSTEC/DCOP） 気候研究に向けた歴史気象資料の復元
- C157 鈴木 亨（MIRC） 海洋分野における国際的な歴史的データ発掘・救済プロジェクトの動向
- C158 佐藤 佳奈子（JAMSTEC/RCGC） 海洋観測データサービスの現状と展望

休憩

座長：久保田 尚之（JAMSTEC/DCOP）

- C159 熊澤 里枝（横浜国大） 1900年以降における日本の台風上陸数
- C160 遠藤 洋和（気象研） 過去100年に観測された夏季日本の気候変動
- C161 時長 宏樹（京大防災研） 熱帯太平洋における1920年代の気候シフト再考
- C162 石井 正好（気象研） 気候モデルによる大気海洋長期気候再解析の実現に向けて

総合討論

大会第1日〔5月21日(木)〕 13:45~17:00 専門分科会

D 会場

「気象レーダー60年の歩みと将来展望」

座長：石原 正仁（京大）

- D151 楠 研一（気象研） 気象研究所における X バンドドップラーレーダーを用いた研究 ―これまでと今後―
- D152 足立 アホロ（気象研） C-band 二重偏波レーダーによる粒径分布と降水強度の推定精度
- D153 米山 邦夫（JAMSTEC） 海洋地球研究船「みらい」搭載のドップラーレーダーを用いた観測研究
- D154 中村 健治（獨協大学） TRMM の 17 年間の観測
- D155 牛尾 知雄（阪大院工） 気象用フェーズドアレイレーダーの研究開発と将来展望
- D156 佐藤 晋介（NICT） フェーズドアレイ気象レーダーによる 30 秒毎の 3 次元観測データの利用
- D157 岩波 越（防災科研） Ka バンド雲レーダー観測網について―積乱雲発達の早期予測に向けて―
- D158 篠田 太郎（名大地球水循環） 名古屋大学 Ka バンド雲レーダーの諸元と初期観測結果

総合討論

「気候変動が東アジア域気象に及ぼす影響の理解に向けて：マルチ気候モデルデータ解析」

趣旨説明

座長：中村 尚（東大先端研）

- D159 楠 昌司（気象研） 温暖化で雨の降り方が変わるのは何年ころか？
- D160 尾瀬 智昭（気象研） CMIP5モデルの陸上気温・降水の再現バイアスと将来予測
- D161 内海 信幸（東大生産研） 東アジアにおける将来の降水量変化に対する気象システム別の寄与度評価
- D162 仲江川 敏之（気象研） CMIP5実験における土壌水分の将来変化原因の統計的推定 (I)

休憩

座長：尾瀬 智昭（気象研）

- D163 西井 和晃（東大先端研） 気候モデル中での熱帯低気圧に伴う日本付近の降水量の評価
- D164 早崎 将光（筑波大） 日本付近の爆弾低気圧の将来変化
- D165 安永 数明（富山大理） 近年の日本海沿岸域の初冬期における降水量の増加傾向に関して
- D166 牛山 朋来（土研 ICHARM） フィリピン・パンパンガ川流域の力学的ダウンスケーリングによる降水のバイアス補正

総合討論

大会第2日〔5月22日(金)〕 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

降水システム I

座長：篠田 太郎（名大地球水循環）

- A201 真木 太一（九大名誉教授） 御蔵島・新島付近での2013年12月15~16日の液体炭酸散布による人工降雨実験
- A202 久芳 奈遠美（東大気海洋研） 衛星観測データの雲微物理学的解析（3）—ハイブリッド雲微物理モデルによるCFODDの解析—
- A203 道端 拓朗（九大院総理工） MIROC-SPRINTARSにおける暖かい雨の雲微物理スキームの評価
- A204 篠田 太郎（名大地球水循環） 2013年6月26日にパラオ共和国上空を通過した降水セル上部で観測された過冷却水滴
- A205 田尻 拓也（気象研） 黄砂イベント時の大気エアロゾルの氷晶核能（その2）
- A206 荒木 健太郎（気象研） 2014年2月14-15日関東甲信大雪の再現実験と氷晶核に関する感度実験
- A207 石坂 雅昭（防災科研） 降雪の粒径と気象条件 —着雪条件とも関連して—
- A208 馬場 雄也（JAMSTEC） 弱い地形性強制力による降水強化
- A209 諸田 雪江（ウェザー・サービス） 雲解像モデルを用いた雷シミュレーションにおける中和電荷分配方法の検討～中和スキームの違いによる時空間発展傾向の比較～
- A210 岩崎 博之（群馬大教育） 落雷エネルギーに着目したチベット高原における雷活動の特徴

大会第2日 [5月22日(金)] 9:30~11:30 一般口頭発表

B 会場

物質循環 I

座長 : 石戸谷 重之 (産総研)

- B201 長澤 親生 (首都大システムデザイン) 小型 1.6 μ m DIAL による大気境界層内の CO₂ 濃度分布観測 (1)
- B202 石戸谷 重之 (産総研) 北極域における船舶および地上観測による大気ポテンシャル酸素の変動要因の解明
- B203 石澤 みさ (環境研) Extremely high XCH₄ in summer 2013 over North-East Asia observed by GOSAT
- B204 梅澤 拓 (環境研) CARIBIC 観測による下部成層圏での塩化メチル濃度の変動
- B205 白石 浩一 (福大) 2014 年冬季北極成層圏でのエアロゾル中不揮発性成分の観測
- B206 秋吉 英治 (環境研) 北半球中高緯度域オゾン層破壊規模の塩素濃度および温室効果ガス濃度依存性
- B207 宮崎 和幸 (海洋研究開発機構) 成層圏における平均子午面循環と渦混合 : 再解析データ比較
- B208 小寺 邦彦 (名大 STE) BD 循環上昇域に見られる東西波数 4 構造
- B209 原田 やよい (気象研) 質量重み付き等温位面上帯状平均法を用いた JRA-55 における大気の流れの整合性の評価報告 (第2報)

大会第2日 [5月22日(金)] 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

観測手法 I

座長 : 花土 弘 (NICT)

- C201 高橋 暢宏 (NICT) TRMM EOM (End of Mission) 観測実験について (その1) 全体概要
- C202 花土 弘 (NICT) TRMM EOM (End of Mission) 観測実験について (その2) Wide Swath 実験
- C203 金丸 佳矢 (JAXA/EORC) TRMM EOM (End of Mission) 観測実験について (その3) Dense Sampling 実験
- C204 中村 健治 (獨協大学) TRMM EOM (End of Mission) 観測実験について (その4) 90度 Yaw 実験
- C205 瀬戸 心太 (長大工) DPR 標準プロダクト V04 に向けた降水強度推定アルゴリズムの改良
- C206 岡本 創 (九大応力研) CloudSat-CALIPSO-AIRS-AMSR-E の複合利用による北極域の雲量、雲微物理量、水蒸気量、海氷面積の解析
- C207 萩原 雄一朗 (九大応力研) CloudSat/CALIPSO/MODIS 複合利用による雲微物理特性導出手法の開発
- C208 三井 文乃 (東北大院理) 雲の鉛直分布による大気上端における雲の短波放射効果の違い
- C209 鈴木 睦 (宇宙研) 487GHz 帯での成層圏-中間圏の気温・風・H₂O・O₃ 計測の感度解析
- C210 清水 慎吾 (防災科研) 関東地方におけるマイクロ波放射計観測ネットワーク -初期解析報告-

大会第2日〔5月22日(金)〕 9:30~11:30 一般口頭発表

D 会場

境界層・環境気象

座長：伊藤 瑠衣（京大防災研）

- D201 大橋 唯太（岡山理大生物地球） 平日と休日の人間活動の違いが都市熱環境に及ぼす影響
—大阪平野における気温の年間測定から—
- D202 岸 為良（名大院環境） 2014年12月17-18日にかけての名古屋における大雪について
- D203 名越 利幸（岩手大教育） 「肱川あらし」における霧の立体構造と風に関する数値実験
- D204 寺尾 徹（香川大教育） 降水量分布に対する高松市屋島による地形影響
- D205 伊東 瑠衣（京大防災研） 都市における気候形成の地理特性への依存性
- D206 服部 康男（電中研） WRF-LESによる大気境界層鉛直構造と地表面近傍での乱流生成機構への洞察
- D207 北 祐樹（東大工） 南半球中緯度海上風の乱流強度増大メカニズムについて

座長：大橋 唯太（岡山理大生物地球）

- D208 鈴木パーカー 明日香（筑波大生命環境） 東京の暑熱環境緩和における都市シナリオ適応効果
- D209 大橋 唯太（岡山理大生物地球） 夏季における熱ストレスの評価指標に関する一考察
- D210 王 敏叡（名大院環境） 冬季ウランバートルにおける大気境界層構造の変化と風が与える大気汚染への影響

大会第3日〔5月23日(土)〕 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

気候システム I

座長：神代 剛 (気象研)

- A301 百瀬 晴行 (無所属) ニューロ法によるマデンジュリアン振動の再現実験
- A302 越前谷 渉 (東大大気海洋研) 南方振動の力学・熱力学的起源
- A303 庭野 匡思 (気象研) 北西グリーンランド SIGMA-A・B サイトにおける気象条件の年々変動
- A304 宮本 歩 (東大先端研) 南インド洋の亜熱帯高気圧と移動性擾乱が下層雲に与える影響. Part 1: 冬季
- A305 神代 剛 (気象研) 雲タイプ別にみた夏季北太平洋上における層状性下層雲量の数年規模変動
- A306 吉森 正和 (北大院地球環境) 理想化数値実験における熱・水蒸気輸送の高緯度温暖化への寄与
- A307 新藤 永樹 (気象研) 気象研究所全球気候モデルの大気境界層スキームの改良(1)
- A308 川合 秀明 (気象研) MRI-CGCM3 における下層雲の雲フィードバック
- A309 小倉 知夫 (環境研) MIROC5 の雲フィードバックに浅い積雲パラメタリゼーションが及ぼす影響
- A310 田上 雅浩 (東大院工) 高密度降水同位体比データを用いた同位体領域気候モデルの検証

大会第3日〔5月23日(土)〕 9:30~11:30 一般口頭発表

B 会場

物質循環II

座長：工藤 玲（気象研）

- B301 渡邊 明（福島大・理工） Spectrum Sonde 観測
- B302 近藤 裕昭（産総研） 3月12日深夜から13日未明の女川への放射性物質の輸送について
- B303 鶴田 治雄（東大大気海洋研） 大気環境常時測定局で使用済みテープろ紙の分析による福島第一原子力発電所事故直後における東日本での大気中放射性セシウムの時空間分布(その1)
- B304 武 靖（名大院環境） Characteristics of Spring Dust Outbreaks and their Relation to Land Surface Conditions in East Asia, 1999-2013
- B305 河合 慶（名大院環境） モンゴル国ダランザドガドにおけるアジアダストのシーロメーター観測：AERONET スカイラジオメーターとの比較
- B306 工藤 玲（気象研） ライダーとスカイラジオメータの複合解析によるエアロゾル鉛直分布の季節変動
- B307 阿保 真（首都大システムデザイン） インドネシア・ケルト火山噴火による火山性成層圏エアロゾルの CALIPSO 衛星データ解析
- B308 松井 仁志（JAMSTEC） ブラックカーボンとその放射強制力の不確定性：混合状態解像モデルを用いた感度実験
- B309 大畑 祥（東大院理） 大気・降水同時観測によるブラックカーボン湿性除去の研究
- B310 大島 長（気象研） 全球モデルによるブラックカーボンの変質過程とその空間分布と放射効果への影響
- B311 板橋 秀一（電中研） トレーサー法を用いた東アジア域の硫酸塩に対する中国の省別の発生源寄与の推定
- B312 竹村 俊彦（九大応力研） 複数のエアロゾル関連モデル相互比較プロジェクト対応シミュレーション

大会第3日〔5月23日(土)〕 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

観測手法Ⅱ

座長：下瀬 健一（防災科研）

- C301 今井 弘二 (宇宙研) Cross-Cutting Comparisons (C3) -観測データが簡単に見られるウェブサービス-
- C302 佐藤 英一 (気象研) 気象レーダーを用いた火山噴煙観測計画について
- C303 山田 芳則 (気象研) dual PRF 速度データの効率よい効果的な品質管理方法の開発
- C304 岩井 宏徳 (NICT) フェーズドアレイ気象レーダーのレーダー反射強度およびドップラー速度の測定精度検証
- C305 橋本 健 (PCKK) フェーズドアレイレーダーデータと地上観測雨量との関係性把握への取り組み
- C306 下瀬 健一 (防災科研) ドップラーレーダー・ライダーデータを用いた下層風の3DVAR解析—2014年6月13日に降雹をもたらした降水システムの事例—
- C307 青木 誠 (NICT) ドップラーライダーによる雨滴粒径分布推定

気象予報

座長：高谷 祐平（気象庁気候情報）

- C308 高谷 祐平 (気象庁気候情報) 次期気象庁季節予測システムによる台風季節予測の可能性に関する研究
- C309 吉村 裕正 (気象研) 二重フーリエ級数を使用した非静力学全球スペクトル大気モデル
- C310 武村 一史 (京大院理) 重合格子法を用いた非静力学モデルによる山岳波の数値実験
- C311 林 悠平 (京大防災研) 非静力学圧縮性気象モデルによる竜巻様渦に関する数値実験
- C312 菊地 亮太 (東北大流体研) フライトデータとリアルタイムデータ同化による乱気流予測

大会第3日 [5月23日(土)] 9:30~11:30 一般口頭発表

D 会場

大気力学

座長 : 板野 稔久 (防衛大地球海洋)

- D301 増田 章 (九大・応力研) 傾圧不安定の仕組み (1) -minimal model で考える物理と数理-
- D302 増田 慧 (京大院理) 傾圧不安定の仕組み (2) -増幅態の空間構造ほか補足-
- D303 黒田 友二 (気象研) 対流圏ジェットの維持機構について
- D304 吉崎 正憲 (立正大地球環境) 対流圏における気温減率の鉛直プロファイル (1)
- D305 伊藤 純至 (東大大気海洋研) 濟州島後流に生じるカルマン渦列状雲の数値実験
- D306 相木 秀則 (JAMSTEC) 全ての緯度帯の波を対象とした Eliassen-Palm 理論と渦度力学
- D307 板野 稔久 (防衛大地球海洋) 3つの階段状渦度域で構成される準地衡流軸対称渦の特異値解析
- D308 山本 勝 (九大応力研) 極向き渦熱輸送が金星型超回転に与える影響
- D309 杉山 耕一郎 (宇宙研) 木星型惑星を想定した雲対流の数値計算
- D310 竹広 真一 (京大数理研) 高速回転する薄い球殻内の熱対流により引き起こされる表層縞状構造の消滅
- D311 齋藤 泉 (京大院理) ニュートン冷却を散逸過程とする強制浅水乱流における赤道西風形成のメカニズムについて
- D312 石渡 正樹 (北大院理) 同期回転水惑星大気構造の惑星半径依存性に関する数値実験

大会第4日〔5月24日(日)〕 9:30~11:30 専門分科会

A 会場

「高解像度全球シミュレーションが拓く新しい気候・気象研究」

座長：梶川 義幸（理化学研究所），滝川 雅之（JAMSTEC）

- A401 小玉 知央 (JAMSTEC) NICAM AMIP タイプ実験における気候場の再現性
- A402 *三浦 裕亮 (東大・院理) 全球雲解像デモンストレーションを越えて
- A403 宮本 佳明 (理研計算科学) 地球大気における湿潤対流の発生の予測可能性
- A404 *芳村 圭 (AORI) 全球高解像度シミュレーションに向けた地表面過程モデリング
- A405 *村上 裕之 (GFDL) GFDLにおける高解像度大気海洋結合モデルの利用可能性について
- A406 *野中 正見 (JAMSTEC) 中緯度における海洋変動と大気変動
- A407 吉田 聡 (JAMSTEC/APL) 渦解像海洋シミュレーションにおける爆弾低気圧の海洋への影響
- A408 山浦 剛 (理研計算科学) NICAM AMIP タイプ実験における梅雨前線の動態
- A409 福富 慶樹 (JAMSTEC) 全球非静力学モデルによる AMIP 型実験出力におけるアジアモンスーン域の熱帯季節内擾乱の再現性
- A410 那須野 智江 (JAMSTEC) 全球非静力学モデルを用いた AMIP-type 計算における夏季アジアモンスーン

総合討論(10分)

* 招待講演

招待講演(発表 12 分, 質疑 3 分), 一般講演(発表 8 分, 質疑 2 分)

大会第4日〔5月24日(日)〕 9:30~11:30 専門分科会

B 会場

「山岳域の気象・気候および環境への影響」

座長：筆保 弘徳（横浜国大），上野 健一（筑波大生命環境）

- B401 上野 健一（筑波大生命環境） 大学間連携事業（JALPS）による中部山岳域の気候変動研究
- B402 若月 泰孝（筑波大学アイン） 中部山岳域の大気・陸面の気候変化予測
- B403 青木 一真（富山大院理工） 山岳大気・雪氷観測から得られる大気エアロゾルの気候変動影響
- B404 川瀬 宏明（気象研） 中部山岳域における積雪分布の把握と将来予測
- B405 Noh NamJin（岐阜大・流域圏センター） 冷温帯落葉広葉樹林の光合成・土壌呼吸特性の温暖化応答
- B406 玉川 一郎（岐阜大流域圏） 山岳域での炭素収支に関するサブグリッドスケールの影響

休憩

座長：川瀬 宏明（気象研），玉川 一郎（岐阜大・流域圏センター）

- B407 筆保 弘徳（横浜国大） 広戸風の発生メカニズム
- B408 西 暁史（筑波大学院生命環境） 関東地方の局地風「空っ風」に対する地形と混合層発達の影響
- B409 三瓶 岳昭（会津大 CAIST） 2007年1月福島県で観測された奥羽山脈風下の強風について
- B410 加藤 隆之（筑波大院生命環境） 斜面温暖帯・斜面冷気流の理想化数値シミュレーションと理論解

総合討論

大会第4日〔5月24日(日)〕 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

データ同化

座長：岡本 幸三（気象研）

- C401 石橋 俊之（気象研）複数の OSSE 手法による仮想観測システムの評価（3）
- C402 前島 康光（理研計算科学）局地的豪雨の予測における稠密な地上観測データ同化の効果
- C403 大塚 成徳（理研計算科学）フェーズドアレイ気象レーダを用いた三次元降水時間補外実験
- C404 レ デュック（JAMSTEC）A hybrid-4DVAR system for the JMA non-hydrostatic regional model
- C405 横田 祥（気象研）観測局所化を導入したアンサンブル変分同化システム
- C406 国井 勝（気象研）領域大気海洋結合モデルを用いたアンサンブルカルマンフィルタの構築
- C407 牛山 朋来（土研 ICHARM）EnKFを用いた2012年九州北部豪雨に伴う白川洪水の予測可能性
- C408 三好 建正（理研計算科学）NICAM-LETKFを用いたGSMaP降水量の同化実験
- C409 寺崎 康児（理研計算科学）NICAM-LETKFシステムを使った衛星輝度温度データ同化
- C410 岡本 幸三（気象研）衛星搭載レーダーの同化に向けて（その3）GPM Core/DPR同化の初期結果
- C411 青梨 和正（気象研）Neighboring Ensembleに基づく変分同化法を使った2014年台風11号事例への衛星雲・降水観測データの同化実験（その1）
- C412 近藤 圭一（理研計算科学）10240メンバーアンサンブルデータ同化実験による大気的非ガウス性の検証

大会第4日 [5月24日(日)] 9:30~11:30 一般口頭発表

D 会場

中高緯度大気・相互作用

座長：富川 善弘 (極地研)

- D401 岩尾 航希 (熊本高専) 成層圏突然昇温に伴う中間圏・下部熱圏の変動
- D402 佐藤 和敏 (総研大複合科学) CFSR 再解析データによる海氷上積雪量と海氷厚の再現性について
- D403 富川 善弘 (極地研) 2013年の南極下部成層圏における脱水過程
- D404 安井 良輔 (東大院理) 昭和基地 MF レーダーの長期観測に基づく潮汐波・重力波・惑星波のクライマトロジーと年々変動の研究
- D405 南原 優一 (東大院理) PANSY レーダーの観測データによる対流圏成層圏の小規模擾乱の解析
- D406 岩崎 俊樹 (東北大院理) 東アジアの寒気流出に誘導される中高緯度の平均子午面循環

座長：美山 透 (JAMSTEC/APL)

- D407 山本 勝 (九大応力研) 2014年12月16日に急発達した南岸低気圧：日本海低気圧の役割
- D408 川野 哲也 (九大院理) 道東地方に暴風雪被害をもたらした爆弾低気圧の数値シミュレーション：潜熱加熱と海面熱フラックスの効果
- D409 天澤 俊行 (北大院環境) 東京に降雪をもたらす低気圧の経路と黒潮流路変動の関係についての統計解析
- D410 岩崎 慎介 (九大応力研) 夏季・瀬戸内海の海洋潮汐に駆動される陸域の下層大気変動
- D411 美山 透 (JAMSTEC/APL) Air-sea Interaction through Low Cloud over the Summertime North Pacific Ocean in a Regional Coupled Model
- D412 森岡 優志 (JAMSTEC/APL) Potential sources of multidecadal climate variability over southern Africa

大会第4日〔5月24日(日)〕 13:30~17:00 一般口頭発表

B 会場

降水システムII

座長：足立 透（気象研）

- B451 磯田 総子 (NICT) フェーズドアレイ気象レーダを用いた降水コアの3次元可視化
- B452 足立 透 (気象研) フェーズドアレイレーダを用いたダウンバーストの超高速観測
- B453 湯浅 惣一郎 (高知大理院) 台風201408号に伴い同時発生した二つの竜巻のレーダー解析
- B454 井岡 佑介 (京大防災研) 高解像度レーダーデータおよび数値実験による局地豪雨の発生機構に関する研究
- B455 南雲 信宏 (気象研) NHMによる孤立積乱雲発生前の海風の内部構造の解析：2013年7月23日の事例
- B456 村田 文絵 (高知大理) 2014年台風18号に伴って現れた波状降水雲の構造
- B457 加藤 輝之 (気象研) 平成26年台風第8号にともなう7月9日沖縄本島での大雨の発生要因
- B458 加藤 輝之 (気象研) 平成26年8月20日広島での大雨の発生要因
- B459 廣田 渚郎 (極地研) 平成26年8月広島豪雨に対するARと上層渦の役割
- B460 高咲 良規 (立正大地球環境) バックビルディング型メソ対流系の維持機構-2013年7月28日山口・島根豪雨事例-

座長：栃本 英伍（東大大気海洋研）

- B461 栃本 英伍 (東大大気海洋研) 強く発達しながら日本列島を横断した梅雨前線帯低気圧の数値実験 - 2013年6月26日の事例解析 -
- B462 栃本 英伍 (東大大気海洋研) 竜巻を伴う温帯低気圧の構造と統計的特徴
- B463 末木 健太 (東大大気海洋研) 台風に伴う竜巻の発生環境 - エントレインメントを考慮したCAPEにもとづく解析 -
- B464 柳瀬 亘 (東大大気海洋研) JRA-55を利用した日本海のPolar Lowのトラッキング その2
- B465 荒巻 健智 (東大大気海洋研) 関東南部における冬型降雪・南岸低気圧降雪
- B466 津口 裕茂 (気象研) 集中豪雨が発生する総観~メソ α スケール環境場の統計解析 -7月の西日本について-
- B467 高薮 縁 (東大大気海洋研) 南太平洋収束帯縁辺における背の高い雨の気象場の解析
- B468 古澤 文江 (名大地球水循環) TRMM衛星の降水特性と陸面マイクロ波射出率のトレンド分布
- B469 松岡 悠太 (筑波大院生命環境) 気象レーダを用いた夏季首都圏における降水システムの時空間解析
- B470 草薮 浩 (京都ウェザー) 平年値降水量グラフのクラスター分析による日本降水量地図
- B471 草薮 浩 (京都ウェザー) 気温図と四季気温マップ (V) - 四季気温マップと気温の高度低減率から見たオーストラリアの気候特性 -

大会第4日 [5月24日(日)] 13:30~17:00 一般口頭発表

C 会場

気候システムII

座長：筒井 純一（電中研）

- C451 加藤 内藏進 (岡大・教育・理科) 日本付近の初冬における冬型気圧配置の特徴に関する総観気候学的解析 (真冬と比較して)
- C452 三上 岳彦 (帝京大) 気象庁「東京」観測点の移転と気温日変化パターンの変化 ―夏期気温の事例―
- C453 内山 常雄 (気象予報士会) 2015年の日本の気温偏差の推定
- C454 菅野 湧貴 (東北大院理) 特定温位面以下の寒気質量の蓄積と放出
- C455 杉本 志織 (首都大) バングラディッシュ周辺域での陸面状態に応じた降水特性の変化に関する高解像実験
- C456 村田 昭彦 (気象研) 高解像度アンサンブル地域気候シミュレーションによる将来気候予測
- C457 筒井 純一 (電中研) 気温上昇と累積CO₂排出量の関係についての論点
- C458 岡田 靖子 (京大防災研) 温暖化に伴う梅雨後期の平均場の特徴
- C459 日比野 研志 (筑波大生命環境) 降水の将来予測における時間・空間平均スケールの役割

座長：今田 由紀子（気象研）

- C460 杉 正人 (気象研) 将来温暖化時の確率降水量マップの作成 (1)
- C461 杉 正人 (気象研) 将来温暖化時の確率台風強度マップの作成 (1)
- C462 増田 善信 (元・気研) 地球温暖化とスーパー低気圧 (爆弾低気圧) の発生数の関係
- C463 星 一平 (新潟大院) 北半球海氷域減少に伴う冬季の低温応答の季節内変動について
- C464 中村 哲 (極地研) 北極海氷減少に伴うBD循環強化と極域増幅への寄与
- C465 今田 由紀子 (気象研) 2014年のエルニーニョはなぜ成長しなかったか?
- C466 林 未知也 (東大大気海洋研) 大気海洋結合系の西風イベントに対する応答: 背景場季節性の重要性
- C467 渡部 雅浩 (東大大気海洋研) 大西洋数十年規模変動のメカニズムに関する数値的研究
- C468 谷貝 勇 (元気象大) 地球温暖化が影響する日本の冷夏と暑夏について (その7) ―東北地方でのみ起こった「温暖化による梅雨明けの遅れ」―
- C469 小畑 淳 (気象研) 938年の噴火は白頭山かエルトギャウか: 地球システムモデル解析

大会第4日〔5月24日(日)〕 13:30~17:00 一般口頭発表

D 会場

台風・熱帯大気

座長：宮本 佳明（理研計算科学）

- D451 和田 章義（気象研） 2013年台風第18号(MAN-YI)に伴う豪雨と海洋との関係
- D452 和田 章義（気象研） 2013年台風第30号(HAIYAN)の強度変化と TCHP
- D453 加藤 雅也（名大地球水循環） 大気海洋波浪結合モデルを用いた将来気候時の台風のダウンスケーリング実験
- D454 安永 数明（富山大理） 北西太平洋域における台風と指向流の統計的關係性
- D455 山崎 聖太（横浜国大） 最悪の台風コースの検出と台風ノモグラム
- D456 堀口 桃子（三重大生物資源） 2011年台風6号がUターンした理由とは
- D457 藤間 弘敬（琉球大理） 2013年台風6号の発生前における下層渦と上層渦の関係
- D458 折口 征二（気象研） 2012年台風第15号の多重壁雲と風速特性
- D459 宮本 佳明（理研計算科学） 熱帯低気圧の眼の壁雲の交換周期について
- D460 金田 幸恵（名古屋大学 HyARC） 西部北太平洋域における台風の強度特性と気象庁全球気候 20kmモデルによる再現性
- D461 沢田 雅洋（気象研） アンサンブル実験を用いた台風強度の水平解像度依存性の調査
- D462 嶋田 宇大（気象研） ドップラーレーダーを活用した台風の強度推定 –その精度と有用性の評価–
- D463 北畠 尚子（気象研） ドボラック法と AMSU による台風強度推定の比較
- D464 伍 培明（JAMSTEC/DCOP） MJO とアジアモンスーンコールドサージによるタイ南部乾季の豪雨
- D465 柳瀬 篤志（富山大理（名大院環境）） スマトラ島における日周期降水活動の季節変化
- D466 高須賀 大輔（東大大気海洋研） NICAM 水惑星でシミュレーションした MJO-like 擾乱の地形感度実験
- D467 末松 環（東大院理） Modulation of MJO propagation speed by the zonal SST gradient of the Indo-Pacific Warmpool
- D468 小柴 厚（筑波大院生命環境） JRA-55 長期再解析値の速度ポテンシャルによる熱帯循環の評価

大会第1日〔5月21日(木)〕 11:45~12:45 ポスター・セッション

- P101 菅原 広史 (防大地球海洋) 岬地形におけるフラックス観測
- P102 箕輪 昌裕 (古野電気) Dual-Doppler 法による風速場解析
- P103 石元 裕史 (気象研) 次期静止気象衛星ひまわり 8号観測による最適化手法を用いた雲物理量推定
- P104 鈴江 寛史 (衛星センター) 次期静止気象衛星ひまわり 8号観測データから算出される雲プロダクトの開発
- P105 栗原 幸雄 (JAXA/EORC) ひまわり 8号のための海面温度アルゴリズム開発
- P106 奥山 新 (衛星センター) 次期静止気象衛星ひまわり 8号観測データ
- P107 神野 有生 (山口大院理工) ひまわり 8号を用いた直達日射量推定アルゴリズムの開発事始め
- P108 石井 昌憲 (NICT) 航空機搭載コヒーレント差分吸収・ドップラー風ライダーの開発
- P109 川村 誠治 (NICT) 水蒸気観測を目的とした地デジ波伝搬遅延測定システムの研究開発
- P110 落合 啓 (NICT) 183GHz マイクロ波放射計による中緯度水蒸気観測の検討
- P111 山下 克也 (防災科研雪氷) 降雪種ごとの降水量捕捉率推定の試み
- P112 小司 禎教 (気象研) JAXA の MADOCA プロダクトを利用した GNSS 可降水量の高頻度・リアルタイム解析
- P113 吉田 智 (気象研) 関東平野における3次元雷放電観測の計画と概要
- P114 橋口 浩之 (京大生存研) 赤道 MU レーダーの観測角度範囲拡大のためのアンテナ配置に関する研究
- P115 永瀬 司 (WICS) 転倒ます型雨量計の比較観測(その2) ーインド, チェラプンジでの比較観測ー
- P116 岡田 啓太 (名城大) TRMM PR を用いた超高解像度降水気候値に見られる局所性
- P117 石垣 雄太 (古野電気) 高分解能気象レーダーを用いた都市小河川の水位推定
- P118 小田切 幸次 (山梨衛研) 2013年夏季における富士山周辺域での降雨分布とその要因について
- P119 堀江 宏昭 (NICT) EarthCARE/CPR 検証用高感度雲レーダの初期観測結果(その3)
- P120 若月 泰孝 (筑波大学アイソ) 弱雨時を対象とした雨量補正モデル
- P121 佐藤 香枝 (明星電気) 地上稠密観測 POTEKA で観測した2014年度夏季の突風観測結果
- P122 森 樹大 (東大院理) 降水・降雪中に含まれるブラックカーボン粒子の測定法の改良
- P123 佐々木 ありな (京大院理) 庄内平野における風変動の空間分布特性
- P124 藤枝 鋼 (気象研) 曇天時を含む地表面付近の下向き長波長放射量の推定
- P125 萩野谷 成徳 (気象研) 気圧日変化と地形特徴
- P126 河野 恭佑 (千葉工大生環) 海風侵入時の乱流スケールの変化
- P127 財前 祐二 (気象研) つくばで観測された新粒子生成の特徴
- P128 清水 厚 (環境研) 大気常時監視データによる黄砂判定のためのライダー観測結果の活用
- P129 山口 慶人 (九大院総理工) エアロゾルの微物理過程を表現するビン法数値モデルの開発
- P130 藤本 梨沙 (奈良女子大理) 奈良における地上光学観測データ解析によるエアロゾルの特徴
- P131 吉田 淳 (東大院理) レーザー誘起白熱法による鉄含有鉱物粒子の検出・定量法の研究
- P132 針ヶ谷 智生 (東大院理) レーザー誘起白熱法を用いた大気中ブラックカーボン粒子の混合状態と形態解析

大会第1日〔5月21日(木)〕 11:45~12:45 ポスター・セッション

- P133 中田 真木子 (近畿大) 都市域における浮遊粒子状物質(PM)の考察
- P134 橋北 太樹 (千工大院生環) 首都圏の大気中浮遊粒子状物質濃度と視程との関係
- P135 五十嵐 康人 (気象研) 2011年3月事故初期の大気中放射性Csの物理・化学性状
- P136 渡邊 貴典 (都大院都市環境) 光化学オキシダントによる森林の育成阻害リスクの推定
- P137 中島 虹 (首都大院都市環境) 夏季晴天弱風日の都心域における夜間の風系と汚染物質濃度分布の関係
- P138 原田 やよい (気象研) JRA-55を用いた北半球冬季の惑星規模波動の伝播特性解析~2013/14年北半球冬季に見られた東西波数2の卓越に着目して~
- P139 河谷 芳雄 (JAMSTEC) 7種類の再解析データ現れた赤道準2年振動の振幅変化
- P140 西井 和晃 (東大先端研) 南半球成層圏オゾン減少による気候変化に対する中緯度海洋フロントの役割

大会第2日〔5月22日(金)〕 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P201 松下 拓樹 (土木研) 2014年2月の大雪時の雪崩発生条件に関する一考察(2)
- P202 大山 博史 (名大 STE 研) アルゼンチン・チリ南部で観測された春季の成層圏オゾン変動
- P203 菊地 信弘 (環境研) GOSAT SWIR 偏光情報の利用による温室効果ガス濃度導出精度の改善検討(2)
- P204 中前 久美 (NIES) 衛星データを用いた温室効果気体等の季節変動と経年変動について
- P205 金 憲淑 (環境研) Estimating regional CH₄ fluxes using ground-based and space-based observations
- P206 高辻 慎也 (気象庁環境気象) 南鳥島 C-130H 輸送機による北西太平洋上空の温室効果ガス観測
- P207 林田 佐智子 (奈良女大・理) 東アジア上空での大気オゾンの変動について
- P208 納口 泰輔 (北大院環境) 熱帯対流圏界層内脱水過程に関するラグランジュ的考察
- P209 今井 弘二 (宇宙研) Cross-Cutting Comparisons (C3) ーデータ検証のための利用方法ー
- P210 田中 博春 (長野県環境保全研) 長野県内の気温観測網2件とメッシュ気温データの比較検討
- P211 石崎 紀子 (JAMSTEC/DSEP) 温暖化に伴う冬季日本海沿岸の降水強度の変化と不確実性
- P212 藤田 実季子 (JAMSTEC) NICAM AMIP-type 実験による日本域夏季降水の将来変化
- P213 高橋 信人 (宮城大) 日本付近における前線帯の季節進行の指標化に関する研究
- P214 原 政之 (CESS) 名古屋都市圏の将来温暖環境予測の不確実性の評価
- P215 田中 実 (無所属) 近年の9月の日本の高温に対する北極海海氷の影響
- P216 永田 玲奈 (無所属) 1901~2000年における北太平洋高気圧指数と日本の夏季降水量との関係
- P217 釜江 陽一 (環境研) 近年の熱帯対流圏上層における気温上昇の停滞傾向
- P218 佐藤 雄一 (弘前大院理工) 亜熱帯前線帯 NACZ,SACZ,SICZ の形成メカニズム
- P219 大田 悠 (日本大院総合基礎) 東アジアにおける偏西風の空間変動特性
- P220 筒井 浩行 (地球観測研究センター) マイクロ波によるチベット高原の疎らな積雪分布の評価とそれに基づく AMSR2 積雪深標準アルゴリズムの改良
- P221 増田 宇将 (筑波大地球学類) ユーラシア大陸北東部における積雪の将来変化
- P222 小松 麻美 (気象協会) 北海道における気候変動適応研究のための水文・気象ダウンスケールデータの情報公開ツール「近未来ビューワ」の開発
- P223 三輪 夏菜 西部北太平洋における7月下旬の活発な対流活動の経年変化
- P224 北野 慈和 (北大院工) CMIP5 マルチモデルを用いたブロッキング発生頻度と極端現象の発生位置の変遷
- P225 野崎 瑛一 (首都大都市環境) 北西太平洋における夏季の降水季節進行の長期変化について
- P226 小川 晨一 (東大先端研) 夏季北太平洋における下層雲の10年規模変動
- P227 堀 正岳 (JAMSTEC/RCGC) CMIP5 気候モデルにおける低気圧経路と活動度の将来変化
- P228 佐藤 和敏 (総研大複合科学) 初冬のメキシコ湾流が北極温暖化と大陸寒冷化に与える影響
- P229 横畠 徳太 (環境研) 気候変動リスク連鎖の全体像の可視化
- P230 大島 和裕 (JAMSTEC/RCGR) シベリア河川流量の長期変動とその要因
- P231 竹内 大輝 (北大工学院) 北パキスタンにおける豪雨発生時の大規模気象場の特徴
- P232 山上 晃央 (筑波大院生命環境) 3次元ノーマルモード展開を用いた MJO のエネルギースペクトル解析

大会第2日〔5月22日(金)〕 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P233 松本 直樹 (京大生存研) レーダー長期観測による赤道域の中間圏・下部熱圏における大気力学過程
- P234 伊藤 享洋 (気象庁数値予報) 波数1の渦 Rossby 波の指数関数成長
- P235 金久 博忠 (気象大) 山岳波の初期値問題の解析解
- P236 北野 慈和 (北大院工) 底面からの加熱及び冷却を伴う回転水槽実験
- P237 志水 達也 (京産大・理) 金星上層大気にみられる不安定波の特徴
- P238 杉山 耕一朗 (宇宙研) 雲解像モデル CReSS の火星大気への適用: 地形と大規模循環の効果の導入
- P239 高橋 芳幸 (神戸大院理) 惑星大気大循環モデルの構築 - 鉛直一次元設定での数値実験

大会第3日〔5月23日(土)〕 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P301 深堀 正志 (気象大) 干渉フィルター型サンフォトメータの測器定数の変動監視
- P302 佐々木 駿 (気象大) 天空放射輝度分布測定から推定されるエアロゾル光学特性について
- P303 茂木 信宏 (東大院理) ブラックカーボン含有粒子の光学特性の高精度計算法
- P304 山田 恭平 (東北大院理) 極域の放射収支と雲および温室効果気体の寄与の変動
- P305 大西 将徳 (神戸大院理) 水蒸気大気の圏界面の推定とハビタブルゾーンの内側境界
- P306 田村 夏美 (京大院理) 衛星搭載降雨レーダデータを用いたブライツバンドの解析
- P307 鈴木 祐人 (名大地球水循環) 雲粒子ゾンデ HYVIS により観測された台風上部吹き出し層の氷晶粒子の粒径・数濃度分布
- P308 林 浩平 (防大地球科) 豪雪減衰を目的とした人工降雨実験の結果と解析
- P309 小西 啓之 (大阪教育大) USB顕微鏡を用いた雪結晶観察装置の試作と降雪粒子観測
- P310 宗近 夏美 (山口大農) GPM/DPR 地上検証のための山形蔵王における融解層内の降水粒子直接観測
- P311 佐藤 陽祐 (理研計算科学) 超水滴法を用いた洋上の浅い積雲の再現実験と妥当性評価
- P312 山田 芳則 (気象研) 「超高解像度観測と数値モデルによる大雪や突風をもたらす降雪雲の動態に関する研究」の概要紹介
- P313 道本 光一郎 (ウェザー・サービス) フェーズドアレイ気象レーダー(PAWR)等を利用した高密度四次元気象予測手法とそれに基づく防災情報提供に関する研究
- P314 大高 早苗 (筑波大院生命環境) 都市の力学的効果が首都圏の降水に及ぼす影響
- P315 渡邊 貴典 (都大院都市環境) 都市の幾何形状が集中豪雨に及ぼす影響～東京 23 区で発生した事例を対象にして～
- P316 小堀 佳奈子 (筑波大院生命環境) JRA-55 を用いた長期気温変動における都市化成分の評価
- P317 中川 清隆 (立正大地球環境) 領域気象モデル WRF により再現計算された上信越山岳域における 2013 年 8 月晴天日気温・気圧日変化と地表面熱収支
- P318 勝野 継太 (名大地球水循環) 2013 年 9 月 4 日に東海地方で大雨をもたらした降水帯の特徴
- P319 出納 誠 (高知大院総合人間自然科学) 高知大朝倉レーダーを用いた台風 12 号に伴う線状降水帯の観測
- P320 大井川 正憲 (京大生存研) ジャワ島西部バンドン盆地で観測されたメソスケール対流についての数値実験
- P321 高野 哲夫 (気象予報士会) 山形県における気温分布と降雪量の時刻依存性の検討
- P322 渡邊 俊一 (東大大気海洋研) 冬季日本海上の渦状擾乱の分類と発生環境場の解析
- P323 佐藤 友徳 (北大院地球環境) 北日本太平洋側の冬季降水量に対する低気圧を介した海面水温の影響
- P324 清水 宏幸 (九大院理) 長白山系による冬季日本海の総観規模低気圧活動の変調
- P325 浅井 博明 (東京学芸大自然科学) 北極海で観測された北極低気圧の構造解析
- P326 田中 健路 (広工大環境) 九州西岸の潮位副振動発生時における東シナ海上での大気場に関する観測
- P327 万田 敦昌 (長大院水産環境) 東シナ海が梅雨前線帯に及ぼす影響
- P328 安藤 雄太 (大気循環と周辺の海面水温が初冬の日本に与える影響)
- P329 渡来 靖 (立正大・地球環境科学) JRA-55 で見られる北半球ジェット気流の長期傾向
- P330 西村 雅人 (気象大) 選択的アンサンブル平均手法による台風予測に関する研究

大会第3日〔5月23日(土)〕 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P331 那須野 智江 (JAMSTEC) 夏季西太平洋における台風発生事例の要因分析 (第2報)
- P332 西村 明希生 1955年以降の世界海洋における高熱帯低気圧熱ポテンシャル海域の拡張
- P333 瀬古 弘 (気象研) LETKFを用いた気象衛星ひまわりの高頻度観測データによる海風前線の同化実験
- P334 野原 大輔 (電中研) ダウンスケーリング法を用いた領域アンサンブル予測
- P335 上田 博 (名大地球水循環) Assessment of wind fields simulated by CReSS for offshore wind energy generation
- P336 吉田 龍二 (理研計算科学) SCALE-LESモデルにおけるドメイン・ネスティングの実装と評価
- P337 中野 直人 (JST さきがけ・北大院理) 確率微分方程式モデルによる時系列予測可能性解析
- P338 坂元 尚美 (京学大) 日記天候記録による日射量復元の高精度化に向けた誤差評価 (その1) 記録者による天候記述のばらつきとその推定日射量への影響
- P339 関 隆則 (気象予報士会) 生徒の能動的参加を重視した天気予報実習の事例「天気予報をやってみよう」

大会第4日〔5月24日(日)〕 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P401 齊藤 雅典 (東北大院理) デジタルカメラを用いた天空光のスペクトルを推定する手法の開発
- P402 内山 明博 (気象研) 地上でのエアロゾル光学特性の連続観測 (2) (福岡と北京の比較)
- P403 清水 治 (防大地球) 空気潤滑法で生成される泡の反射率測定
- P404 茂木 信宏 (東大院理) 不純物粒子を含む水雲の光学特性の高精度・高速な近似計算法
- P405 田村 葉里 (東北大院理) 熱帯における氷晶雲の物理特性の経年変動
- P406 因幡 直希 (筑波大院生命環境) 気象レーダパラメータを用いた雨滴粒径分布推定手法の開発
- P407 森野 達也 (名大地球水循環) 雲解像モデルによりシミュレーションされた冬季雷雲内の電荷分布の時間変化
- P408 中井 専人 (防災科研・雪氷) 同時観測に基づいた降雪粒子の種類別 Ze-R 関係
- P409 村田 文絵 (高知大理) 高知における雨滴粒度分布の観測
- P410 プテリ ヌルフィエナ サギタ (東北大院理) The Evolution of Microphysical Properties of Tropical Mesoscale Convective Systems (MCSs): Performance of Tracking Algorithms
- P411 岩崎 杉紀 (防大地球海洋) 熱帯の成層圏に存在する雲 (stratospheric cirrus) の分布
- P412 橋本 明弘 (気象研) 雹害報告数と数値モデルによる固体降水予想値の比較
- P413 鈴木 博人 (JR 東日本防災研) レーダー雨量の列車運転規制への活用に関する研究
- P414 木村 孝承 (防衛大地球海洋) 2013年9月16日群馬県みどり市で発生した竜巻の地上稠密観測データを用いた解析
- P415 丸小 有沙 (筑波大地球) 地形性降水メカニズムに応じた衛星降水量の標高依存性
- P416 柏柳 太郎 (日本無線) 雲レーダーで捉えた2012年9月3日に房総半島で発生した積乱雲の解析
- P417 大泉 伝 (JAMSTEC) スーパーコンピュータ「京」とNHMを用いた2014年8月の広島の高解像度実験
- P418 渡邊 智也 (筑波大院生命環境) 梅雨前線帯のメソ α スケール降水システムの理想化数値実験手法
- P419 加藤 新太 (筑波大院生命環境) JRA-55を用いた日本での豪雨発生環境場に関する統計的研究
- P420 松下 拓樹 (土木研) 着雪条件下の大雪事例 ~2014年12月の高田における事例~
- P421 木村 祐輔 (新潟大院自然) 冬季季節風時の降水に与える佐渡島の影響について—JMANHMを用いた感度実験—
- P422 高松 直史 (東北大院理) 地域気候モデルを用いた東北地方の積雪水資源の再現性
- P423 井上 晃介 (東京学芸大院 教育) 早春における日本付近での温帯低気圧の急発達事例に着目した大気循環場の比較
- P424 平田 英隆 (九大院理) 黒潮続流域の海面水温変動に対する爆弾低気圧の応答
- P425 宮地 友麻 (首都大都市環境) 冬季東シナ海における SST 変動のメカニズム
- P426 佐藤 笑 (弘前大院理工) 東シナ海黒潮近傍で観測された霧 —2013年と2014年の観測事例—
- P427 坂崎 貴俊 (京大 RISH) 中緯度下部対流圏に見られる日周期東進渦
- P428 アブディラー ムハンマド ライス (東北大理) Transient Impact and Response of Isentropic East Asian Cold Air Outbreak to Tropical Convective Activity
- P429 二宮 大輝 (首都大院都市環境) 冬季東アジアモンスーン季節内変動に着目した長期変化解析
- P430 櫻木 智明 (気象研) SSMIS 輝度温度データを用いた台風強度推定法の開発

大会第4日〔5月24日(日)〕 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P431 安藤 雄太 (三重大院生物資源) 台風通過による海面水温低下が他の台風経路に与える影響
- P432 斎藤 龍生 (東京海上研究所) CMIP5 マルチモデルと確率台風モデルを組合わせた将来台風予測③
～生涯最低気圧となる緯度の将来変化～
- P433 田崎 瑛 (気象大) 日周的陸大気結合実験
- P434 黒木 志洸 (気象大) 鉛直方向に Chebyshev 多項式展開を用いた静力学全球3次元スペクトルモデルの構築
- P435 瀬古 弘 (気象研) LETKF を用いた GNSS 掩蔽データの同化法の開発
- P436 村崎 万代 (気象研) JMA-NHM の日射誤差の数値実験による考察
- P437 渡邊 武志 (東海大 TRIC) 太陽光発電エネルギーマネジメント教育のための気象情報を利用したソーラーカーシミュレーター
- P438 藤原 優 (岩手大教育) 中学生による「NHM 統合環境」を用いた気象数値実験の教育効果

講演者索引

< A >

Abdillah Muhammad Rais (アブデイレ
ムハンマド ライス) P428
Abo Makoto (阿保 真) B307
Adachi Ahoro (足立 アホロ) D152
Adachi Toru (足立 透) B452
Aiki Hidenori (相木 秀則) D306
Akiyoshi Hideharu (秋吉 英治) B206
Amazawa Toshiyuki (天澤 俊行) D409
Amemiya Arata (雨宮 新) B158
Ando Yuta (安藤 雄太) P328
Ando Yuta (安藤 雄太) P431
Aoki Kazuma (青木 一真) B403
Aoki Makoto (青木 誠) C307
Aoki Teruo (青木 輝夫) A164
Aonashi Kazumasa (青梨 和正) A153
Aonashi Kazumasa (青梨 和正) C411
Araki Kentaro (荒木 健太郎) A206
Aramaki Kento (荒巻 健智) B465
Asai Hiroaki (浅井 博明) P325

< B >

Baba Yuya (馬場 雄也) A208
Bessho Kotaro (別所 康太郎) A101

< D >

Deushi Makoto (出牛 真) B105

< E >

Echizenya Wataru (越前谷 渉) A302
Eito Hisaki (永戸 久喜) C101
Endo Hirokazu (遠藤 洋和) C160
Endo Nobuhiko (遠藤 伸彦) C155
Enomoto Takeshi (榎本 剛) C107

< F >

Fudeyasu Hironori (筆保 弘徳) B407
Fujieda Tsuyoshi (藤枝 鋼) P124
Fujimoto Risa (藤本 梨沙) P130
Fujita Mikiko (藤田 実季子) P212
Fujiwara Yuu (藤原 優) P438
Fujiyoshi Yasushi (藤吉 康志) D111
Fukabori Masashi (深堀 正志) P301
Fukami Kazuhiko (深見 和彦) D102
Fukutomi Yoshiki (福富 慶樹) A409
Furuzawa Fumie (古澤 文江) B468

< H >

Hagihara Yuichiro (萩原 雄一郎) C207
Haginoya Shigenori (萩野谷 成徳) P125
Hamada Atsushi (濱田 篤) C106
Hamazu Kyousuke (浜津 享助) D104
Hanado Hiroshi (花土 弘) C202
Hara Masayuki (原 政之) P214

Harada Yayoi (原田 やよい) B209
Harada Yayoi (原田 やよい) P138
Harigaya Tomoo (針ヶ谷 智生) P132
Hashiguchi Hiroyuki (橋口 浩之) P114
Hashikita Daiki (橋北 太樹) P134
Hashimoto Akihiro (橋本 明弘) P412
Hashimoto Ken (橋本 健) C305
Hashimoto Makiko (橋本 真喜子) A156
Hattori Yasuo (服部 康男) D206
Hayasaki Masamitsu (早崎 将光) D164
Hayashi Kohei (林 浩平) P308
Hayashi Michiya (林 未知也) C466
Hayashi Yuhci (林 悠平) C311
Hayashi Yuki (林 佑樹) B110
Hayashida Sachiko (林田 佐智子) P207
Hibino Kenshi (日比野 研志) C459
Higuchi Atsushi (樋口 篤志) A102
Hirano Soichiro (平野 創一朗) B111
Hirata Hidetaka (平田 英隆) P424
Hirooka Toshihiko (廣岡 俊彦) B157
Hirose Hitoshi (広瀬 民志) A105
Hirota Nagio (廣田 渚郎) B459
Hori Masahiro (堀 雅裕) A155
Hori Masatake (堀 正岳) P227
Horie Hiroaki (堀江 宏昭) P119
Horiguchi Momoko (堀口 桃子) D456
Hoshi Kazuhira (星 一平) C463

< I >

Igarashi Yasuhito (五十嵐 康人) P135
Iguchi Toshio (井口 俊夫) D109
Imada Yukiko (今田 由紀子) C465
Imai Koji (今井 弘二) C301
Imai Koji (今井 弘二) P209
Inaba Naoki (因幡 直希) P406
Inai Yoichi (稲飯 洋一) B155
Inatsu Masaru (稲津 将) C103
Inoue Kosuke (井上 晃介) P423
Ioka Yusuke (井岡 佑介) B454
Ishibashi Toshiyuki (石橋 俊之) C401
Ishidoya Shigeyuki (石戸谷 重之) B103
Ishidoya Shigeyuki (石戸谷 重之) B202
Ishigaki Yuta (石垣 雄太) P117
Ishii Masayoshi (石井 正好) C162
Ishii Shoken (石井 昌憲) P108
Ishimoto Hiroshi (石元 裕史) P103
Ishiwatari Masaki (石渡 正樹) D312
Ishizaka Masaakki (石坂 雅昭) A207
Ishizaki Noriko (石崎 紀子) P211
Ishizawa Misa (石澤 みさ) B203
Isoda Fusako (磯田 総子) B451
Itahashi Syuichi (板橋 秀一) B311
Itano Toshihisa (板野 稔久) D307
Ito Junshi (伊藤 純至) D305
Ito Rui (伊東 瑠衣) D205
Ito Takahiro (伊藤 享洋) P234

Itoh Hisanori (伊藤 久徳) B156
Iwabuchi Hironobu (岩渕 弘信) A104
Iwai Hironori (岩井 宏徳) C304
Iwanami Koyuru (岩波 越) D157
Iwao Koki (岩尾 航希) D401
Iwasaki Hiroyuki (岩崎 博之) A210
Iwasaki Shinsuke (岩崎 慎介) D410
Iwasaki Suginori (岩崎 杉紀) P411
Iwasaki Toshiaki (岩崎 俊樹) D406

< K >

Kadowaki Masanao (門脇 正尚) B164
Kamae Youichi (釜江 陽一) P217
Kamahori Hirotaka (釜堀 弘隆) C154
Kanada Sachie (金田 幸恵) D460
Kanehisa Hirotada (金久 博忠) P235
Kanemaru Kaya (金丸 佳矢) C203
Kanno Ariyo (神野 有生) P107
Kanno Yuki (菅野 湧貴) C454
Kashiwayanagi Taro (柏柳 太郎) P416
Katagiri Shuichiro (片桐 秀一郎) A161
Kato Kuranoshin (加藤 内蔵進) C451
Kato Masaya (加藤 雅也) D453
Kato Takayuki (加藤 隆之) B410
Kato Teruyuki (加藤 輝之) B457
Kato Teruyuki (加藤 輝之) B458
Katou Arata (加藤 新太) P419
Katsuno Keita (勝野 継太) P318
Kawai Hideaki (川合 秀明) A308
Kawai Kei (河合 慶) B305
Kawamura Seiji (川村 誠治) P109
Kawano Kyousuke (河野 恭佑) P126
Kawano Tetsuya (川野 哲也) D408
Kawase Hiroaki (川瀬 宏明) B404
Kawatani Yoshio (河谷 芳雄) P139
Kikuchi Nobuhiro (菊地 信弘) P203
Kikuchi Ryota (菊地 亮太) C312
Kim Ileon-sook (金 憲淑) P205
Kimura Hyosun (木村 孝承) P414
Kimura Yusuke (木村 祐輔) P421
Kinoshita Takenari (木下 武也) B112
Kishi Sadayoshi (岸 為良) D202
Kita Yuki (北 祐樹) D207
Kitabatake Naoko (北畠 尚子) D463
Kitano Yoshikazu (北野 慈和) P224
Kitano Yoshikazu (北野 慈和) P236
Kobayashi Chiaki (小林 ちあき) B108
Kobori Kanako (小堀 佳奈子) P316
Kodama Chihiro (小玉 知央) A401
Kodama Chihiro (小玉 知央) B165
Kodera Kunihiko (小寺 邦彦) B208
Kohma Masashi (高麗 正史) B153
Komatsu Asami (小松 麻美) P222
Kondo Hiroaki (近藤 裕昭) B302
Kondo Keiichi (近藤 圭一) C412
Konishi Hiroyuki (小西 啓之) P309

Koshiba Atsushi (小柴 厚)	D468	Morioka Yushi (森岡 優志)	D412	Ogura Tomoo (小倉 知夫)	A309
Koshiro Tsuyoshi (神代 剛)	A305	Moroda Yukie (諸田 雪江)	A209	Ohashi Yukitaka (大橋 唯太)	D201
Kuba Naomi (久芳 奈遠美)	A202	Moteki Nobuhiro (茂木 信宏)	P303	Ohashi Yukitaka (大橋 唯太)	D209
Kubota Hisayuki (久保田 尚之)	C156	Moteki Nobuhiro (茂木 信宏)	P404	Ohata Sho (大畑 祥)	B309
Kudo Rei (工藤 玲)	B306	Mukai Sonoyo (向井 苑生)	A157	Ohmori Shiro (大森 志郎)	D107
Kuji Makoto (久慈 誠)	A160	Munechika Natsumi (宗近 夏美)	P310	Ohtake Hideaki (大竹 秀明)	C108
Kumazawa Ric (熊澤 里枝)	C159	Murakami Hiroshi (村上 浩)	A154	Ohyama Hirofumi (大山 博史)	P202
Kunii Masaru (国井 勝)	C406	Murakami Hiroyuki (村上 裕之)	A405	Oigawa Masanori (大井川 正憲)	P320
Kurihara Yukio (栗原 幸雄)	A159	Murata Akihiko (村田 昭彦)	C456	Oizumi Tsutao (大泉 伝)	P417
Kurihara Yukio (栗原 幸雄)	P105	Murata Fumie (村田 文絵)	B456	Okada Keita (岡田 啓太)	P116
Kuroda Yuhji (黒田 友二)	D303	Murata Fumie (村田 文絵)	P409	Okada Yasuko (岡田 靖子)	C458
Kuroki Yukihiro (黒木 志洸)	P434	Murata Isao (村田 功)	B102	Okamoto Hajime (岡本 創)	C206
Kusanagi Hiroshi (草薙 浩)	B470	Murayama Yasuhiro (村山 泰啓)	C109	Okamoto Kozo (岡本 幸三)	C410
Kusanagi Hiroshi (草薙 浩)	B471	Murazaki Kazuyo (村崎 万代)	P436	Okita Taikan (沖 大幹)	A151
Kusunoki Shoji (楠 昌司)	D159	< N >		Okuyama Arata (奥山 新)	P106
Kusunoki Kenichi (楠 研一)	D151	Nagao Takashi (永尾 隆)	A158	Onishi Masanori (大西 将徳)	P305
Kuwano-yoshida Akira (吉田 聡)	A407	Nagasawa Chikao (長澤 親生)	B201	Ono Yuhsaku (小野 祐作)	A162
< L >		Nagase Tsukasa (永瀬 司)	P115	Origuchi Seiji (折口 征二)	D458
Le Duc (レデュック)	C404	Nagata Rena (永田 玲奈)	P216	Ose Tomoaki (尾瀬 智昭)	D160
< M >		Nagaya Katsuhiko (長屋 勝博)	D103	Oshima Kazuhiro (大島 和裕)	P230
Mabuchi Kazuo (馬淵 和雄)	A165	Nagoshi Toshiyuki (名越 利幸)	D203	Oshima Naga (大島 長)	B310
Maehara Yasumitsu (前島 康光)	C402	Nagumo Nobuhiro (南雲 信宏)	B455	Ota Yu (大田 悠)	P129
Maki Taichi (真木 太一)	A201	Nakaegawa Toshiyuki (仲江川 敏之)	D162	Otagiri Koji (小田切 幸次)	P118
Manda Atsuyoshi (万田 敦昌)	P327	Nakagawa Kiyotaka (中川 清隆)	P317	Otake Sanac (大高 早苗)	P314
Maruko Arisa (丸小 有沙)	P415	Nakai Sento (中井 専人)	P408	Otsuka Michiko (大塚 道子)	A109
Masuda Akira (増田 章)	D301	Nakajima Ko (中島 虹一)	P137	Otsuka Shigenori (大塚 成徳)	C403
Masuda Satoshi (増田 慧)	D302	Nakakita Eiichi (中北 英一)	D108	Oyama Ryo (小山 亮)	A108
Masuda Takamasa (増田 宇将)	P221	Nakamae Kumi (中前 久美)	P204	< P >	
Masuda Yoshinobu (増田 善信)	C462	Nakamura Kenji (中村 健治)	C204	Putri Nurfienna Sagita (プテリ スルフイエナ	P410
Matsui Hitoshi (松井 仁志)	B308	Nakamura Kenji (中村 健治)	D154	サギタ)	
Matsumoto Naoki (松本 直樹)	P233	Nakamura Tetsu (中村 哲)	C464	< S >	
Matsuoka Yuta (松岡 悠太)	B469	Nakano Masuo (中野 満寿男)	A110	Saito Izumi (齋藤 泉)	D311
Matsushita Hiroki (松下 拓樹)	P201	Nakano Naoto (中野 直人)	P337	Saito Masanori (齊藤 雅典)	P401
Matsushita Hiroki (松下 拓樹)	P420	Nakata Makiko (中田 真木子)	P133	Saito Ryusei (斎藤 龍生)	P432
Michibata Takuro (道端 拓朗)	A203	Naoe Hiroaki (直江 寛明)	B104	Sakamoto Naomi (坂元 尚美)	P338
Michimoto Koichiro (道本 光一郎)	P313	Nasuno Tomoe (那須野 智江)	A410	Sakazaki Takatoshi (坂崎 貴俊)	P427
Mikami Takehiko (三上 岳彦)	C151	Nasuno Tomoe (那須野 智江)	P331	Sakuragi Tomoaki (櫻木 智明)	P430
Mikami Takehiko (三上 岳彦)	C452	Ninomiya Daiki (二宮 大輝)	P429	Sampe Takeaki (三瓶 岳昭)	B409
Mimura Satoru (三村 慧)	B154	Nishi Akifumi (西 暁史)	B408	Sasaki Arina (佐々木 ありな)	P123
Minamihara Yuichi (南原 優一)	D405	Nishii Kazuaki (西井 和晃)	D163	Sasaki Shun (佐々木 駿)	P302
Minowa Masahiro (箕輪 昌裕)	P102	Nishii Kazuaki (西井 和晃)	P140	Sasaki Takuya (佐々木 拓也)	B106
Mitsui Ayano (三井 文乃)	C208	Nishimoto Eriko (西本 絵梨子)	B159	Sato Eiichi (佐藤 英一)	C302
Miura Hiroaki (三浦 裕亮)	A402	Nishimura Akio (西村 明希生)	P332	Sato Emi (佐藤 笑)	P426
Miwa Kana (三輪 夏菜)	P223	Nishimura Masato (西村 雅人)	P330	Sato Kae (佐藤 香枝)	P121
Miyaji Yuma (宮地 友麻)	P425	Niwano Masashi (庭野 匡思)	A303	Sato Kanako (佐藤 佳奈子)	C158
Miyama Toru (美山 透)	D411	Noda Akira (野田 彰)	B109	Sato Kaoru (佐藤 薫)	B152
Miyamoto Ayumu (宮本 歩)	A304	Noguchi Shunsuke (野口 峻佑)	B161	Sato Kazutoshi (佐藤 和敏)	D402
Miyamoto Yoshiaki (宮本 佳明)	A403	Noguchi Shunsuke (野口 峻佑)	C104	Sato Kazutoshi (佐藤 和敏)	P228
Miyamoto Yoshiaki (宮本 佳明)	D459	Noguchi Taisuke (納口 泰輔)	P208	Sato Tomonori (佐藤 友徳)	P323
Miyazaki Kazuyuki (宮崎 和幸)	B207	Nohara Daisuke (野原 大輔)	P334	Sato Yousuke (佐藤 陽祐)	P311
Miyazaki Risa (宮崎 理紗)	A163	Noh Nam Jin (魯 南賑)	B405	Sato Yuichi (佐藤 雄一)	P218
Miyoshi Takemasa (三好 建正)	C408	Nomaka Masami (野中 正見)	A406	Satoh Shinsuke (佐藤 晋介)	D156
Miyoshi Yasunobu (三好 勉信)	B167	Nozaki Eiichi (野崎 瑛一)	P225	Sawada Masahiro (沢田 雅洋)	D461
Mizuta Ryo (水田 亮)	B160	< O >		Sawada Yohei (澤田 洋平)	A152
Momose Haruyuki (百瀬 晴行)	A301	Obata Atsushi (小畑 淳)	C469	Seki Takanori (関 隆則)	P339
Mori Tatsuhiro (森 樹大)	P122	Ochiai Satoshi (落合 啓)	P110	Sekiguchi Miho (関口 美保)	A103
Morino Tatsuya (森野 達也)	P407	Ogawa Shinichi (小川 晨一)	P226	Seko Hiromu (瀬古 弘)	P333

- Seko Hiromu (瀬古 弘) P435
 Seto Shinta (瀬戸 心太) C205
 Shibata Kiyotaka (柴田 清孝) B163
 Shimada Udai (嶋田 宇大) D462
 Shimizu Atsushi (清水 厚) P128
 Shimizu Hiroyuki (清水 宏幸) P324
 Shimizu Osamu (清水 治) P403
 Shimizu Shingo (清水 慎吾) C210
 Shimizu Tatsuya (志水 達也) P237
 Shimose Ken-ichi (下瀬 健一) C306
 Shimpo Akihiko (新保 明彦) C102
 Shindo Eiki (新藤 永樹) A307
 Shinoda Taro (篠田 太郎) A204
 Shinoda Taro (篠田 太郎) D158
 Shiotani Masato (塩谷 雅人) B151
 Shiraiishi Koichi (白石 浩一) B205
 Shoji Yoshinori (小司 禎教) P112
 Sueki Kenta (末木 健太) B463
 Suematsu Tamaki (末松 環) D467
 Sugawara Hirofumi (菅原 広史) P101
 Sugawara Satoshi (菅原 敏) B101
 Sugi Masato (杉 正人) C460
 Sugi Masato (杉 正人) C461
 Sugimoto Shiori (杉本 志織) C455
 Sugiyama Ko-ichiro (杉山 耕一朗) D309
 Sugiyama Ko-ichiro (杉山 耕一朗) P238
 Suido Makoto (出納 誠) P319
 Suzue Hiroshi (鈴江 寛史) P104
 Suzuki Hiroto (鈴木 博人) P413
 Suzuki Makoto (鈴木 睦) C209
 Suzuki Toru (鈴木 亨) C157
 Suzuki Yuto (鈴木 祐人) P307
 Suzuki-parker Asuka (鈴木ハカ-カ-明日香) D208
- < T >
- Taguchi Masakazu (田口 正和) C105
 Tajiri Takuya (田尻 拓也) A205
 Takahashi Nobuhiro (高橋 暢宏) C201
 Takahashi Nobuto (高橋 信人) P213
 Takahashi Yoshiyuki (高橋 芳幸) P239
 Takamatsu Naofumi (高松 直史) P422
 Takano Tetsuo (高野 哲夫) P321
 Takasaki Yoshinori (高咲 良規) B460
 Takasuka Daisuke (高須賀 大輔) D466
 Takatsuji Shinya (高辻 慎也) P206
 Takaya Yuhei (高谷 祐平) C308
 Takayabu Yukari (高藪 縁) B467
 Takehiro Shin-ichi (竹広 真一) D310
 Takemura Kazushi (武村 一史) C310
 Takemura Toshihiko (竹村 俊彦) B312
 Takenaka Hideaki (竹中 栄晶) A107
 Takeuchi Daiki (竹内 大輝) P231
 Tamagawa Ichiro (玉川 一郎) B406
 Tamura Natsumi (田村 夏美) P306
 Tamura Shiori (田村 栗里) P405
 Tanaka Hiroharu (田中 博春) P210
 Tanaka Kenji (田中 健路) P326
 Tanaka Minoru (田中 実) P215
- Tanoue Masahiro (田上 雅浩) A310
 Tasaki Akira (田崎 瑛) P433
 Tatehira Ryozo (立平 良三) D101
 Terao Toru (寺尾 徹) D204
 Terasaki Koji (寺崎 康児) C409
 Tochimoto Eigo (栃本 英伍) B461
 Tochimoto Eigo (栃本 英伍) B462
 Tokinaga Hiroki (時長 宏樹) C161
 Toma Hiroataka (藤間 弘敬) D457
 Tomikawa Yoshihiro (冨川 喜弘) D403
 Tsuguti Hiroshige (津口 裕茂) B466
 Tsukamoto Naoki (塚本 尚樹) D106
 Tsuruta Haruo (鶴田 治雄) B303
 Tsutsui Hiroyuki (筒井 浩行) P220
 Tsutsui Junichi (筒井 純一) C457
- < U >
- Uchiyama Akihiro (内山 明博) P402
 Uchiyama Tsuneco (内山 常雄) C453
 Ueda Manabu (上田 学) B162
 Ueno Kenichi (上野 健一) B401
 Umezawa Taku (梅澤 拓) B204
 Ushio Tomoo (牛尾 知雄) D155
 Ushiyama Tomoki (牛山 朋来) C407
 Ushiyama Tomoki (牛山 朋来) D166
 Utsumi Nobuyuki (内海 信幸) D161
 Uyeda Hiroshi (上田 博) D110
 Uyeda Hiroshi (上田 博) P335
- < W >
- Wada Akiyoshi (和田 章義) D451
 Wada Akiyoshi (和田 章義) D452
 Wada Masakazu (和田 将一) D105
 Wakazuki Yasutaka (若月 泰孝) B402
 Wakazuki Yasutaka (若月 泰孝) P120
 Wang Minrui (王 敏叡) D210
 Watanabe Akira (渡邊 明) B301
 Watanabe Masahiro (渡部 雅浩) C467
 Watanabe Shunichi (渡邊 俊一) P322
 Watanabe Takanori (渡邊 貴典) P136
 Watanabe Takanori (渡邊 貴典) P315
 Watanabe Takeshi (渡邊 武志) P437
 Watanabe Tomoya (渡邊 智也) P418
 Watarai Yasushi (渡来 靖) P329
 Wu Jing (武 靖) B304
 Wu Peiming (伍 培明) D464
- < Y >
- Yagai Isamu (谷貝 勇) C468
 Yamada Kyohei (山田 恭平) P304
 Yamada Yoshinori (山田 芳則) C303
 Yamada Yoshinori (山田 芳則) P312
 Yamagami Akio (山上 晃央) P232
 Yamaguchi Yoshihito (山口 慶人) P129
 Yamamoto Akira (山本 哲) C153
 Yamamoto Masaru (山本 勝) D308
 Yamamoto Masaru (山本 勝) D407
 Yamasaki Shota (山崎 聖太) D455
- Yamashita Katsuya (山下 克也) P111
 Yamashita Yousuke (山下 陽介) B107
 Yamaura Tsuyoshi (山浦 剛) A408
 Yanase Atsushi (柳瀬 篤志) D465
 Yanase Wataru (柳瀬 亘) B464
 Yasui Ryosuke (安井 良輔) D404
 Yasunaga Kazuaki (安永 教明) D165
 Yasunaga Kazuaki (安永 教明) D454
 Yatagai Akiyo (谷田貝 亜紀代) B168
 Yokohata Tokuta (横島 徳太) P229
 Yokota Sho (横田 祥) C405
 Yoneyama Kunio (米山 邦夫) D153
 Yoshida Atsushi (吉田 淳) P131
 Yoshida Kohei (吉田 康平) B166
 Yoshida Ryuji (吉田 龍二) P336
 Yoshida Satoru (吉田 智) P113
 Yoshimori Masakazu (吉森 正和) A306
 Yoshimura Hiromasa (吉村 裕正) C309
 Yoshimura Kei (芳村 圭) A404
 Yoshizaki Masanori (吉崎 正憲) D304
 Yuasa Soichiro (湯浅 惣一郎) B453
 Yumimoto Keiya (弓本 桂也) A106
- < Z >
- Zaiki Masumi (財城 真寿美) C152
 Zaizen Yuji (財前 祐二) P127